



青武台だより



No.203

平成26年12月18日発行

目 次

ページ

1.はじめに	2
2.活躍する仲間	
第49回全国高等専門学校体育大会に参加して	3~6
第49回全国高等専門学校体育大会成績	6~7
第69回国民体育大会(卓球)に参加して	7
第69回国民体育大会出場選手成績	7
アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2014 東海・北陸地区大会に参加して	8
第25回全国高等専門学校プログラミングコンテストに参加して	9
第7回関数グラフアートカンファレンス	10
第8回歯みがきロボットコンテストに参加して	10~11
第10回全日本学生室内飛行ロボットコンテストに参加して	11
第21回全国高等専門学校将棋大会に参加して	12
第21回全国高等専門学校将棋大会成績	12
第38回全国高等学校総合文化祭将棋部門に参加して	12~13
第38回全国高等学校総合文化祭将棋部門成績	13
第38回全国高等学校総合文化祭閉幕部門に参加して	13
第38回全国高等学校総合文化祭閉幕部門成績	14
第38回文部科学大臣杯全国高校閉幕選手権全国大会に参加して	14
第38回文部科学大臣杯全国高校閉幕選手権全国大会成績	14
平成26年度福井県高等学校少林寺拳法大会 兼 第18回全国高等学校少林寺拳法選抜大会福井県予選会入賞者一覧	14
第46回福井県吹奏楽コンクールに参加して	15
保育ボランティアを体験して	16
第50回高専祭	17
球技大会	18
弁論大会	18
クリーン大作戦	19
被災体験	19
平成26年度教育後援会研究奨励一覧	20
平成25年度教育後援会奨励研究概要報告	20~22
平成26年度 キャンパスプロジェクト採択一覧	23
平成25年度 キャンパスプロジェクト概要報告	23~25
3.学生の将来と進路	
進路決定について	25
平成26年度進路内定状況	25
大学編入学試験体験記	26
就職試験体験記	26
インターンシップ体験記(本科)	27
インターンシップ体験記(専攻科)	28
海外インターンシップを体験して(専攻科)タイ	28~29
専攻科海外研修を体験して	30
専攻科生による校外発表会(北陸技術交流テクノフェア)	30
4.中学生の皆さんへ	
キャンパスツアー2014及び	
キャンパスリサーチ2014の開催について	31
中学校だより	32
5.学園通信	
平成26年度献血推進協力団体等厚生労働大臣感謝状伝達式	32
救急救命講習会・実技講習会について	32~33
オープンラボの開催	33
女子中学生と保護者のための体験学習&懇談会の実施について	34
平成26年度防災訓練の実施について	35
平成26年度学寮防災訓練の実施について	35
本校に着任して	36
6.追悼抄	
丹羽義次 元校長を偲んで	36~37

福井工業高等専門学校

FUKUI NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

<http://www.fukui-nct.ac.jp>

はじめに

創立50周年に向けて

教務主事 上島晃智

福井工業高等専門学校は、皆様に支えられ、平成27年に創立50周年を迎えることとなります。開学以来、希望に燃えた高度経済成長や、オイルショック、バブルとその崩壊、続く就職氷河期等々、一口に半世紀と呼ぶには難しいような激動の時代を乗り越え今日に至ってきたわけですが、その中で私たちは一貫して「社会に貢献できる創造型の技術者育成」をめざして学生の育成にあたって参りました。その間、本科の卒業生は7000名をゆうに超え、求人倍率もただ高いと言うだけでなく、リーマンショックのさなかでも17倍（昨年度26倍）の数字をいただき、名実ともに社会に根づき受け入れられた教育システムとなっております。また、約半数の学生が国公立の大学や専攻科に進学するなど、開学初期の閉塞感も払拭されて、中学生から見た高専のイメージは「エンジニアを育てる高・大一貫教育」として認められておりまます。

この様に安定した評価をいただいている理由はどこにあるのかと言うことを改めて考えてみると、それは「自由な校風」と言うことに尽きるのではないかでしょうか。実社会で必要とされるスキル（能力）とは何かを考えてみると、知識と技術とコーディネートの力（ソーシャルスキル）がバランス良く備わっていることが何よりも大切であり、これらの力をいかに身につけてもらうかが私たち高専が行っている教育の大きな特徴と言えます。この中でもソーシャルスキルを身につける事の大切さと難しさは皆様も良くご承知のことだと思います。これを学び取り身につけることは一朝一夕ではできません。ましてやマニュアルがあれば済むというものでは決してありません。目標を持ち、自分で考え行動し、時には立ち止まり周りを見回して自分のあり方を見直すこと。これ以外の道はないと思うのです。

さて、本校ではどうでしょうか。これを読み解くキーワードは、高専が、精神的に大きく成長するこの時期に「5年間の一貫教育」を行っていると言う

事です。たぶん、学生は入学時には「エンジニアになるための勉強をする」と言うこと以外にあまり大きな目的意識は無いと思いますし、それが普通でしょう。しかし、本校に入り5年間を順当に過ごせば、就職ならばたとえ不況であっても高い求人倍率に支えられ、進学であれば普通高校の様にひたすら受験のための勉強をすることなく進めます。これが心の成長期を迎えた学生にとってかけがえのないアドバンテージであることは言うべくもないでしょう。何より重要なことは「立ち止まり自分を振り返る心の余裕」これを創り出す自由とゆとりが本校の教育システムの中にはあるのです。また、ソーシャルスキルを身につける素地もここにあると思っています。もちろん、これは良い面ばかりとは言えません。本人が自由の使い方を間違えれば、目的を忘れ自分を見失う事にもなりかねませんが、これも社会に出るために訓練の一つであり、担任制度などそのための学生ケアを用意しています。私たちは、この様な積み重ねの中で皆様の信頼を築いてきたことに自信を持つと共に、これからもこの理念を変えることなく学生を育ててゆきたいと思っています。

しかしながら、世の流れは速く大きくうねり、将来の見通しが立てづらい時代となっていました。この様な時であればこそ、社会で必要とされる「生き残る術」も多様になってきています。本校は、学校である以上、これから時代を生きるために何が重要かを考え、それを学生諸君に提供する責務があると思っています。その答えの一つが、平成28年度に導入する、複合的な視野を育てる新しいカリキュラムです。ご期待下さい。

福井高専は、皆様に安心して学生を預けていただくために、また、皆様からの信頼を護り社会に必要とされ続けるために努力して参ります。これからもぜひ温かいご支援をいただきたくお願い申し上げます。

活躍する仲間

第49回 全国高等専門学校体育大会に参加して

私の高専大会

ソフトテニス部 5C 谷川和樹

私にとって全国高専大会に出ることは1年生の頃からの最大の目標だった。全国高専大会に出るためには北陸地区大会で優勝しなければいけない。1年生の時に出た北陸地区大会ではトーナメントの初戦で石川高専の3年生ペアにボコボコにされ、高専の大会といえども勝ち進むことの難しさをさまざまと感じさせられたのを今でも鮮明に覚えている。

私の高専5年間の集大成である今回の北陸地区大会では、4年生の桂田とペアを組み色々なラッキーが重なって準決勝戦まで進むことができた。準決勝の相手は福井高専の中田・辺見ペアだった。中田・辺見はどちらも3年生で、特に辺見は中学の頃から一緒に練習していたので、準決勝で対戦すると分かったときはとても嬉しく思った。競った試合だったが結果は4-2で勝ち、決勝に進むことができた。決勝戦では石川高専の古田・武村ペアと対戦し、善戦したが結果は1-4と負けてしまった。しかし、今年は準優勝でも全国高専大会に出られたため、全国高専大会への出場が決まった時に後輩たちが「先輩が全国に行けてよかった」と言って喜んでくれたのが非常に嬉しかった。

全国高専大会では、一回でも多く勝って応援してくれている後輩たちに恩返ししたいと思い、奮闘したが一回戦で福島高専の武藤・佐藤ペアに1-4で負けてしまった。全国との力の差を痛感した。私は来年の高専大会には出られないが、後輩たちにはチャンスがあるので団体、個人とも全国大会に出られるように頑張って欲しい。



全国大会を終えて

剣道部 2E1 早瀬夏貴

私は今回、2回目の全国大会でした。あまり緊張していないつもりだったけれど、他の選手の練習や試合を見ているうちに、不安が大きくなりました。個人戦では、緊張と相手の気迫からいつも通り動くことができませんでした。試合のあと、もっと自分から攻めていけばよかったなど後悔しました。次の日の団体戦はオープン参加でした。団体戦は、自分1人ではなくチーム全員での戦いなので、気持ちを入れ替えて試合に臨みました。自分の思うように動けなかつたけれど、個人戦よりはいい試合ができたと思います。

全国大会を終えて、もっと練習しないといけないなと思いました。技が単発で終わってしまうこと、攻めが弱いことなど、改善しないといけないところがわかつてよかったです。また、強い選手は剣道の技術だけではなく、生活や行動の面においてもしっかりとしていました。私も日頃の生活から見直していこうと思います。来年、もう一度全国大会に出場できるように、日々の部活に励んでいきたいです。

私は、先生、部活の仲間、家族、いろいろな人たちのおかげで全国大会に行くことができました。支えてくれた全ての人たちへの感謝を忘れないようにしたいです。



活躍する仲間

全国大会で学んだこと

卓球部 3B 藤田瑞姫

今年の全国大会は、8月30日、31日の2日間、四国にある愛媛県の松山市総合コミュニティセンターで行われた。去年は準優勝という悔しい結果だった。だから今年は優勝を目指して試合に挑んだ。

今年の試合は8月末に試合があったこともあり、各県の代表選手は準備万端な状態であると感じた。私も夏休みに他校へ練習試合に行ったり、部活をしたりと日々頑張ってきたつもりでいた。しかし、試合をして己の無力さを痛感した。去年より実力が落ちたように感じた。これは周りのみんなよりも練習量が足りなかつたこと、あるいはひとつひとつの練習メニューが悪かったことが原因だと思う。秋や春等の気温が調度良い時期は誰もが頑張ることができる。しかし、夏や冬の練習は怠けてしまう傾向がある。そういう時期に周りの選手は頑張っていたのだと気付かされた試合だった。毎日コツコツと練習し、課題を消化していくことの大切さが分かった。

今回の大会は課題を多く見つけることができた。見つけた課題は日々の練習で少しづつ消化していく、来年は思い切り試合が出来るよう1年間かけて準備していきたい。まず、毎日の部活を一生懸命取り組むことから始めていきたい。そして、練習中は意識を高く持ち続けられるようになりたい。



第49回全国高専大会(野球)に参加して

野球部 5B 村上凌

今年の7月に開催された全国高専大会北陸予選で例年、壁となっていた石川高専を1回戦で下し、決勝戦では接戦の末、富山高専射水キャンパスに勝利し5年振りの全国高専大会に出場できました。

今年は四国で開催され、野球は香川高専高松キャンパス主管で行われました。全国の高専から各地区の代表が10チーム集まりトーナメント形式で大会が進みました。

1日目は開会式と1回戦を行うチームの試合をする予定でしたが天候に恵まれず、簡易的な開会式のみとなりました。また、1日目に試合のないチームは前日練習の予定がありました。これも中止になりました。

しかし、チームの士気は下がらずバッティングセンターに行くなど各自自主練習を怠らず2日目に入りました。

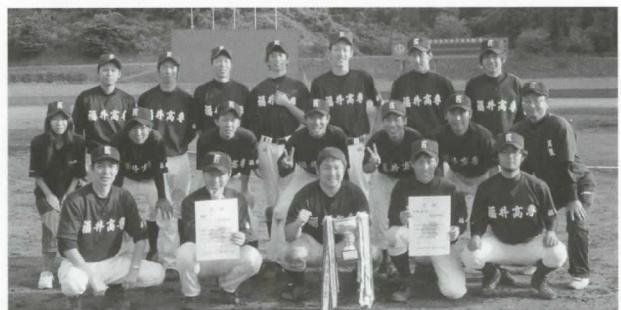
2日目の第2試合からの予定で心配されていた天候も晴れになり、試合に臨みました。

相手は四国代表の阿南高専で気合は十分だったのですがチーム全体に力みが生じ思った通りのプレーができず、大敗を喫してしまいました。

今回この全国高専大会に参加して北陸大会で参加していた4年生のメンバーと一緒に野球ができない心残りではあります。スポーツを通して熱くなれてとてもよい経験になりました。

また、全国大会に参加するためにお世話になった方や、最後まで僕たちの面倒を見てくれた加藤先生に感謝を述べたいと思います。

ありがとうございました。



活躍する仲間

高専大会を終えて

水泳部 F2 立 壁 涼 虎

僕は今回初めて、全国高専大会に参加しました。参加した種目は、400m、800mの自由形です。水泳での全国大会は初めてではありませんでしたが、高専大会ということもあり、どのようなものかもわからず不安もありました。

試合の前日に香川県の会場に行きました。目的は前日アップです。前日アップはそのプールでの感覚を確めたり、調子を整えるという面でも大切で、出る種目も長めだったので通常より多く距離を泳ぎ調子を整えました。

試合当日、自分の種目は予選がなく決勝のみだったので、朝はリラックスすることができました。レースの前には校長先生も来て下さっており、がんばろうと心から思いました。

僕のその日1番目のレースは800mでした。緊張はしていましたが、前半から積極的に攻めることができました。後半は自分の練習不足が目立ち、順位を落として6位になってしまいましたが、初めての全国高専の舞台でのレースを楽しむことができました。400m自由形でも後半をねばりきることができず5位に終わってしまいました。

今回の高専大会では、自分の練習不足が目立ち、残念な結果に終わってしまいました。今回の経験を生かし、1年間かけて鍛え、もっとタフになり、来年の全国高専では表彰台にのぼれるようにがんばっていきたいと思います。



初めての全国大会

柔道部 F2 稲 葉 棕 子

今年の夏、私は全国高等専門学校体育大会に初めて出場しました。競技は柔道です。私自身、久しぶりの大会、そして初めての全国大会に出られただけでも、とてもうれしかったです。

出場が決まってから、夏休みの間、私は稽古に励みました。当日を向かえ、会場に流れるピリピリとした緊張感に私は少しおどろきました。北陸地区の予選とは全く違うと言っていいほど空気の重たさや、雰囲気、もちろん他の選手の顔つきが真剣そのものだったからです。

計量、開会式が終わり、試合がはじまりました。

私の対戦相手は初段持ちの人でした。やはり、さすが!!というくらい上手かったです。結果は負けてしまいましたが、なぜかわくわくしている自分がいました。その時、練習量が足りていない、柔道と正面から向きあえていないなど、たくさん反省点がでてきたからです。この反省点から、前よりもっとたくさん人より練習し、自分の得意技を磨いていきたいと思います。そして、来年の夏は北陸地区で優勝するのはもちろん、全国大会に必ず出場して、今年より良いと思えるような試合をして、ベスト4以上を取ります。この目標に向かって、毎日少しづつでも努力していきたいです。



活躍する仲間

全国大会に出場して

サッカー部 5E 森 本 航

私達福井高専サッカー部は7月の北信越大会で準優勝し、8月23日～26日にかけて愛媛県の新居浜市で行われた全国高専大会に出場してきました。

今年で7年連続の全国大会出場となりましたが、過去2年間は1回戦敗退ととても悔しい思いをしてきました。今年は1回戦突破だけでなく全国大会優勝を目標に部全体で毎日の練習に取り組んできました。また、今年のチームは4、5年が、高校年代のときからほとんど変わらないメンバーでプレーしてきて、公式戦でも良い成績を収めてきたので、人間関係、技術ともにとても良い状態でした。

全国大会1回戦の相手は豊田高専でした。豊田高専は4年連続全国大会出場で全国大会の常連校です。試合はもの凄いシーソーゲームとなり、片方が点を取っても、また取り返しの繰り返しで延長戦に突入しても決着がつかず、4-4のままPK戦になりました。先行の豊田高専の6人目が枠を外し、福井高専は6人全員がきっちりと決め、3年ぶりの1回戦突破となりました。

2回戦は近大高専とでした。近大高専は何度も優勝経験のある強豪校です。去年の1回戦でも戦い0-4で敗れいつかりベンジしたいと思っていました。

た。前半は惜しいシーンもありましたが得点することはできずに0-0で後半を迎えました。後半に入ると先に福井高専が先制しました。しかし、追い付かれ更に後半終了間際に逆転を許し、2回戦敗退となってしまいました。悔しい気持ちはありませんでしたが、やり切った感じが大きかったです。

これで引退となりましたが、部活を通して得たものをこれから社会生活に生かしていきたいです。

最後になりますが、お世話頂きいろんなことを学ばせて頂いた先輩方、私たちの代に付いて来てくれた後輩たち、そして今まで5年間、何不自由なく続けさせてくれた両親に大きな感謝をしたいです。



第49回 全国高等専門学校体育大会成績

◎野球 (平成26年8月22日～24日)

香川県営野球場(レクザムスタジアム)

2回戦 福井高専 3-14 阿南高専(2回戦敗退)

◎サッカー (平成26年8月23日～26日)

新居浜市営サッカー場

1回戦 福井高専 4-4 豊田高専

(PK戦 6-5)

2回戦 福井高専 1-2 近畿大学高専(2回戦敗退)

◎剣道 (平成26年8月23日～8月24日)

観音寺市立総合体育館

【女子団体の部・オープン】 (予選リーグ敗退)

【女子個人の部】

1回戦 早瀬 夏貴(2E) 0-2 吉本沙穂

(1回戦敗退)

◎柔道

(平成26年8月30日)

愛媛県武道館

【女子個人の部】

63kg級 稲葉 棕子(F2) 0-1 山口 英莉
(1回戦敗退) (茨城高専)

◎水泳

(平成26年8月24日)

香川県立総合水泳プール

【男子400m自由形】

立壁 涼虎(F2) (記録)4分27秒88 (5位)

【男子800m自由形】

立壁 涼虎(F2) (記録)9分19秒63 (6位)

【女子100m自由形】

八田 朱里(2C) (記録)1分05秒24 (6位)

活躍する仲間

◎卓球

(平成26年8月30日～31日)

松山市総合コミュニティセンター体育館

【女子ダブルスの部】

〈予選リーグ〉

- 〔福井高専(藤田(3B)・鈴木(2C)) 3-0 沼津高専〕
- 〔福井高専(") 3-0 都城高専〕
- 〔福井高専(") 3-0 神戸市立高専〕

〈決勝トーナメント〉

- 福井高専(藤田(3B)・鈴木(2C)) 1-3 福島高専

〈3位決定トーナメント〉

- 福井高専(藤田(3B)・鈴木(2C)) 3-0 高知高専
(3位)



【女子シングルスの部】

〈予選リーグ〉

- 〔福井高専(鈴木 優(2C)) 3-0 熊本(八代)高専〕
- 〔福井高専(") 3-0 岐阜高専〕
- 〔福井高専(") 3-0 米子高専〕

〈決勝トーナメント〉

- 福井高専(鈴木 優(2C)) 2-3 福島高専

〈3位決定トーナメント〉

- 福井高専(鈴木 優(2C)) 3-0 明石高専
(3位)

◎ソフトテニス

(平成26年8月30日～31日)

徳島市JAバンクテニスプラザ

【男子個人の部】

- 福井高専(谷川(5C)・桂田(4C)) 1-4 福島高専
(1回戦敗退)

第69回 国民体育大会(卓球)に参加して

国体を終えて

私は今回初めての国体出場だった。今年は初めてだったということもあり、とても緊張した。

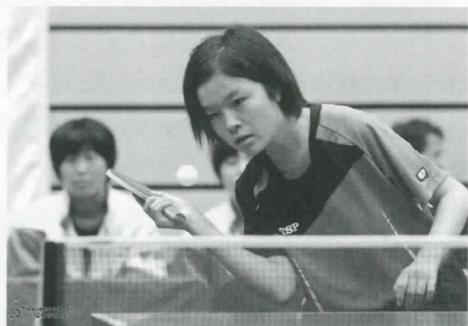
試合は団体戦で、すべてトーナメントという形で進行していく。まず私たちの1回戦の相手は鹿児島県だった。私のチームのみんなが誰も相手の戦型を知らなかったので、どんな相手なのか予測できず、どきどきしていた。私は1回戦で1番に出た。相手チームのエースと試合をした。ドライブがとてもかかっていたり、コースが鋭かったりしたので、返球するのが大変だった。セットが2対2で次のセットでラストセットになった。私は自分の得意なサーブでたくさん点数をとって3対2で勝つことができた。

2回戦は大阪府だった。インターハイ優勝する選手や世界大会へ出場する選手がいた。サーブ、レシーブがうまくて、なかなか自分の得意なことをするチャンスがなかった。私の苦手なコースばかりねら

卓球部 2C 鈴木 優

ってきた。私は0対3で負けて、福井県は0対3で負けた。

今回の大会はたくさんの課題をみつけることができたと思う。強い選手の上手いところをもっと見習うべきだと思った。克服できていないところを、今後の部活の練習では特に気をつけて取り組みたい。これからもいろいろな大会があるので、次の大会までには課題を克服していたい。今年負けた相手に次こそは勝てるようになりたい。



[福井新聞社提供]

第69回国民体育大会出場選手成績

【少年女子】

(平成26年10月10日(金)～17日(金)) 長崎県大村市体育文化センター

1回戦 福井 3-0 鹿児島

2回戦 福井 0-3 大阪(2回戦敗退)

活躍する仲間

アマゾン・全国高等専門学校ロボットコンテスト2014東海・北陸地区大会に参加!

東海北陸地区大会を通して

3M 林 田 剛 一

今年の高専ロボコンの課題は、積み上げた蒸籠を角材や斜面などの障害物を突破して運ぶというものだった。蒸籠の安定感がカギとなるこの課題に対して、蒸籠を載せたお盆を球面上で滑らせることで、アクチュエータを全く用いずに水平を保ち障害物に対応するというアイデアを形にした。大会では、このアイデアが評価されて、アイデア賞を始め2つの賞を受賞することが出来た。アイデア対決であるロボコンでアイデアが評価されることは非常に嬉しく、表彰で名前を呼ばれたときは思わず声が出た。しかし、試合は2回戦敗退。全国大会に出場することは出来なかった。

今年は例年よりも早くロボットが形になり、操作の練習をすることが出来た。しかし、本番で自分が操縦桿を握り痛感したことは、緊張する場でしっかりと動かすには、もっと練習が必要だということだ。事実、試合中に起きたイレギュラーに対応することが出来なかった。もう少し練習出来ていれば同様の問題に練習で出会うことができ、本番で対応出来たのではないかと考えると物凄く悔やまれる。

来年は、今年以上に製作スケジュールのマネジメントをしっかりと行いたいと思っている。技術面では自分の周りを含めどんどん向上しているので、ぜひとも次は、全国大会の会場である国技館で沢山の観客を沸かせるロボットを造りたい。



大会は楽しかった!

ロボット部 2E1 堀 口 日 向

5月の大会ルール発表から約半年。先日の10月12日に、地区大会が終わりました。ちゃんとベストは尽くせたので、自分としては、いい経験になったのではないかと思います。

私は、ロボットの大会に出るときや、その他技術交流の場があるところでは、いつもこの言葉を思い出しています。「技術は盗むもの」。小学6年生の時に、ある京大の講師の先生がおっしゃった言葉です。「盗む」の意味には「無断で」というのが含まれているので、私は盗んではいないのですが、他の人の技術を「参考に」ぐらいはしています。私は、ロボットの回路図設計、ソフトウェア開発が担当ですが、やることが多すぎて、どうしても技術が「浅く」なりがちです。そこで、インターネットで先人の知恵を借りて、自分なりのアレンジをして、ロボットに実装することがあります。しかし、実際に動いているロボットを見て、それに関して質問して意見交流をすると、難しい用語に苦しみながら画面とにらめっこをすると、前者の方が楽しいし、効率もいいです。

今回の大会でも、自分の作ったものとは違う、たくさんのロボットを見てきました。そして、自分が作ったものの問題点、課題が見つかりました。1年後の大会に向けて、全力で自分の技術を高めていきたいです。



活躍する仲間

第25回 全国高等専門学校プログラミングコンテストに参加レア

プロコン競技部門に参加して

3EI 山田涼太

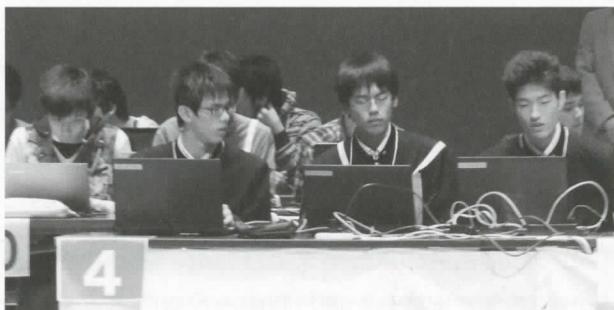
今回のプログラミングコンテストのような大きな大会に出場したのは僕含めメンバー全員初めての試みでした。先輩の助言もあって何とかなりましたが不安でいっぱいでした。

ルールはダウンロードした画像でパズルを完成させるというもので、画像解析と解決のアルゴリズムを両方考えなければいけませんでした。しかもパズルの完成品は公開されないのでそれも考えなければいけません。まずはどういうアルゴリズムで実装するかを検討し、何を使うかを考えました。必要なことを調べ、実験し、開発していくと共にOpenCVを使うなど新しいことにも挑戦したため、いい経験になったと思います。

開発中も本番中も「やれるだけやってみよう」という意気込みで挑みました。バグが出たときもうまく行かなかったときも直せるだけ直すつもりで行きました。なるべく後悔しないよう、全力でやったつもりです。

結果は1回戦敗退、敗者復活で準決勝へ、準決勝で敗退となりました。1回も勝ちあがれないなんてことが無かったのでまだ良かったと思います。しかし心残りもあります。一つは勝ち上がり方が順位的にギリギリ上がれただけということ。もう一つはパズルを一度も完成させることができずスコアで上がったことです。

勉強不足が露呈したのでこれから少しづつでも勉強していきたいと思います。



2014プロコン～25th～

2EI 野村弘樹

10月18日から2日間、岩手県の一関文化センターでプログラミングコンテストが開催され、「WT」という安否情報共有アプリを作成し課題部門に出場しました。

今回が初めての出場でとても緊張していました。当日のプレゼンテーションの準備や、実際にアプリを使ってもらうための資料づくりなど予選通過から当日までの期間がとても短く感じました。校内審査で同じようなアイディアを考えていた先輩の方にも手伝ってもらえて、とても助かりました。

当日になって作成した物が動かなくなったりトラブルが起こったりしたものの、一生懸命頑張ったのでやりきるしかないといました。結果は、敢闘賞とさくらインターネットさんからの企業賞をもらう事ができました。企業賞の受賞は先生も自分達も予想していないことだったので、とてもうれしかったのを覚えています。また、他の企業の方々も自分達の作ったアプリに興味をもってくれていた事にも一生懸命頑張ったかいがかったと思いました。

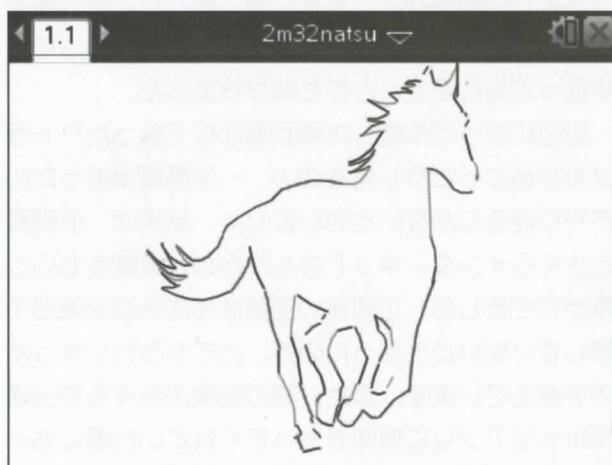
最後に、プロコンに携わっていた先生方や協力してくださった方にありがとうございます! 来年のプロコンは優勝できるように頑張ります! ありがとうございました!!



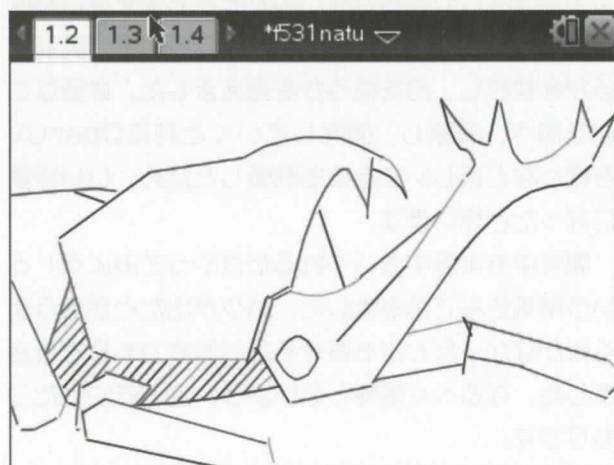
活躍する仲間

第7回 関数グラファートカンファレンス

8月23日に東京理科大神楽坂キャンパスにて「第7回関数グラファートカンファレンス」が実施されました。このカンファレンスでは、全国大会で選ばれた優秀作品の制作者が口頭発表・ポスター発表をし、最優秀作品が選ばれます。本校からは以下の2作品が優秀作品として選ばれ、制作した学生がカンファレンスに参加してきました。



3M 水上 恭太 「馬」



2E 発坂 卓行 「虫」

第8回 歯みがきロボットコンテストに参加します

歯みがきロボットコンテストに参加して

私たちは、授業の一環として前期の間、歯みがきロボットの制作に取り組みました。この授業の担当の先生が歯みがきロボコンの開催に深く関わっていて、勧められたのがきっかけでした。私たちのチームはプログラムや電気回路の勉強の為、レゴ等の制作キットを使わずに機体を一から自作しました。今までそういった事の経験があるメンバーは居なかつたので、手さぐり状態で始まりました。形状から機

4EI 篠 地 大 輝

構、使用するマイコンまで全て自分で決めるのは、とても大変でした。この機体に使用したマイコンは「Ichigo Jam」というもので、他では使われていないものを選択しました。そんな、自らハードルを上げたロボット制作は難航し、夏休みの終わり頃まで作業は続きました。

こうした苦労の末に出来上がった、歯みがきロボットを携えて出場した第8回歯みがきロボットコン

活躍する仲間

テスト。機体を調整しやすく作製したおかげで、当日の試合前でも短時間の内に調整することができました。結果は自律部門優勝、さらにロボットを一から作ったということで特別賞をもらうことができました。ロボット制作中は思うように動作しなかったり、仕様変更がよく起こったりなど楽ではありませんでしたが、チームみんなで一つのものを作製するのはとても楽しかったです。来年も私たちに続く形で好成績を残せるチームが現れることを期待しています。



第10回 全日本学生室内飛行ロボットコンテストに参加して

室内飛行ロボットコンテストに参加して

この大会に出場するため、4月から室内模型飛行機の設計、作成、自動操縦を行うためのデバイスの開発を始めました。夏休みに入るまでに自動制御するためのワンチップマイコンについて調べ、各種センサーや自動制御のアルゴリズムを模索し、サンプルプログラムを作成しました。

夏休みには、それらを積み込む機体の作成を開始しました。機体制作には昨年電子情報棟に導入されたレーザーカッターや、3DCADを使わせていただきました。レーザーカッターを使うことで、飛行機の翼型や細かい部品を手動で作成するには何時間かかる作業を10分程度で終わらせることができ、同じ大きさ、形のものも寸分違わず作成することができるため大変重宝しました。3DCADは図面を描き上げるのに少し時間がかかりましたが、1つの設計図が出来上がれば、部品によっては他の機体にも流用できるものもありますし、改良するときもドラフターで図面を書き直す必要もなく、データの修正だけで済みます。

今回は飛行機の主翼を取り外し可能にするため、少し特殊な機体設計を行い作成しました。通常であ

5E 小林貴人

れば、設計から開発だけで1ヶ月はかかるところを、これらの機材を有効活用することで、1週間程度で完成させることができました。完成後に試験飛行をし、機体の剛性等の確認を行って修正をしつつ、機体が仕上がった段階で実際にマイコン、センサーを積み込み、自動制御のテストを行っていき大会に向けて準備をしました。しかし、大会が9月後半のため、飛行調整のための十分な時間が得られず、今大会では良い結果を残せませんでしたが、次年度の大会のため、新たに機体やその制御システムの作成を行っていきます！



活躍する仲間

飛角 第21回 全国高等専門学校 将棋大会に参加して 王金

囲碁・将棋部 2M 田 保 久 博

8月20日から8月22日までの3日間、第21回全国高等専門学校将棋大会が行われて、個人戦4人、団体戦1チーム（3人）が出場しました。結果は、個人、団体とも惜しくも予選敗退でしたが、今回の大会で将棋の戦法、この局面ではここが良いなど、学ぶことが出来た人がいました。

今回、私はマネージャーとして大会に出ました。試合に出ることはできなかったけれど、私自身も高専大会のレベルの高さに驚きました。また、私もプロとの対局をする機会があり、指導をいただきました。まだ、勝率が良くなつた訳ではないですが、相手を少しでも追い込めるようになりました。今年は、残り新人戦がありますが、その大会に生かせるよう

にしたいです。

また、団体戦で1勝1敗で勝った方が予選突破、トーナメント進出の対局でお互い時間ギリギリの場面がありました。お互い指し急ぎすぎて駒がごちゃごちゃになり、それにより、お互いに勘違いをして勝敗が分からぬ状況になりました。私は、お互いに勝たなければならぬ気持ちがぶつかり合った結果だと思い、それだけ、壮絶なことがあったのでやはり勝負の世界はすごいなと改めて思いました。

今回、高専大会に選手ではないですが、マネージャーとして出ることでき、さらに多くのことを学べたことに感謝し、これから頑張り、来年の高専大会は選手として出場したいです。

▶▶▶ 第21回 全国高等専門学校 将棋大会成績 ◀◀◀

(平成26年8月21日～8月22日) 龜の井ホテル別府店 由布の間

【男子団体戦】

- 1回戦 福井高専 2-1 秋田高専
- 2回戦 福井高専 3-0 松江高専
- 3回戦 福井高専 1-2 富山高専(本郷)
中山 玲司(3C)・小田 樹也(2E)・
奥田 真史(F1)
(3回戦敗退(ベスト8))

【男子個人戦】

- | | | |
|-----------|---|---|
| 〈予選リーグ〉 | [|] |
| 佐々木勇斗(3E) | | |
| 三村 優太(3B) | | |
| 山岸 大悟(2C) | | |
- (予選リーグ敗退)
- 布田 匠希(2B)

第38回 全国高等学校総合文化祭 将棋部門に参加して

全国将棋大会

茨城県で将棋の全国大会がありました。全国大会に出るためには、県大会で優勝しないといけません。私たちは県大会で優勝して、福井県の代表となり全国大会に出場することが決まりました。

団体戦メンバーは一般的の将棋大会でも1番上のA級に出るくらい強く、県大会はほぼ負けることなく

囲碁・将棋部 F1 奥 田 真 史

優勝できたので、私は全国大会でも優勝できると思っていました。しかし結果は予選落ちという悔しい結果に終わってしまいました。全国大会でも自分の将棋が通用すると思っていた甘さを思い知らされました。全国大会のトーナメントを見ていて、私が勝てばトーナメントに上がれたかもしれない自分

活躍する仲間

が同じ土俵に立てていないことがとても悔しかったです。

予選落ちが決まり、将棋を観戦していて将棋をしている人の集中力がすごくて、気迫が見ているこちらまで伝わってくるようでした。これくらい一局の将棋に集中しないと全国大会は勝てないのだと思いました。

この全国大会を通して自分の未熟さを知り、新しい目標を見つけることができたので全国大会でのことをバネにして頑張りたいです。



▶▶▶ 第38回 全国高等学校総合文化祭 将棋部門成績 ◀◀◀

(平成26年7月27日～7月28日) 茨城県武道館

【男子団体戦】

〈予選リーグ〉

中山 琳司(3C)・小田 樹也(2E)・奥田 真史(F1) リーグ戦2勝2敗 (予選敗退)

第38回 全国高等学校総合文化祭 囲碁部門に参加して

いばらき総文2014、第38回全国高等学校総合文化祭茨城大会(囲碁部門)に参加して

囲碁・将棋部 3B 三 村 優 太

第38回全国高等学校総合文化祭(囲碁部門)が茨城県水戸市の県武道館で7月30、31日にかけて開催されました。ご当地キャラクターの水戸ちゃんがお出迎えしてくれました。他にも、来場者に花や記念バッヂのプレゼントなど大歓迎ムードでした。

1日目は4局、2日目は2局行いました。持ち時間は1人40分で1局80分勝負でした。囲碁をしていない人にとっては、長く感じるかもしれません。しかし、一般的な試合時間です。私はそれでも短く感じます。

試合で1日中囲碁をしたのにも関わらず、他県の友人に「この後暇なら囲碁しない?」と誘われました。僕は福井から1人だったので行ってみました。すると、大会出場者が20人くらい集まっていました。仲間に入れてもらって、囲碁やトランプをして楽しみました。連絡先も交換しました。後で知った

のですが、全国大会で団体・個人優勝者など錚々たるメンバーでした。

来年はみんな大学生です。大学と高専では出場できる大会が異なるようです。全日本学生囲碁十傑戦は僕にも参加資格があるのでぜひチャレンジしたいです。大会に出場したことで貴重な出会いがありました。僕もみんなに負けないように、自らを高めていきます。

学校関係者の皆様ありがとうございました。



活躍する仲間

▶▶▶ 第38回 全国高等学校総合文化祭 囲碁部門成績 ◀◀◀

(平成26年7月30日～7月31日) 茨城県武道館

【個人の部】

〈予選リーグ〉 三村 優太(3B) リーグ戦2勝4敗 (予選敗退)

第38回 文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権全国大会に参加して

第38回 文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権全国大会に参加して

囲碁・将棋部 3B 三 村 優 太

第38回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会が東京市ヶ谷の日本棋院で7月22、23、24日にかけて開催されました。

1回戦の相手は大阪代表の赤木君でした。大阪は関西棋院もあり、出場者が毎年レベルが高いです。対戦相手が決まった途端、息を飲みました。1手1手ミスをしてはいけないというプレッシャーを感じました。

2回戦は福島代表の安藤君でした。昨年の総文祭(長崎)で対戦した相手でした。お互いに気がついて挨拶を交わしました。1回戦は負けてしまいましたが、2回戦は安藤君に昨年と同様、勝つことができました。

3回戦は京都代表の宮本君でした。大差で勝てると思いましたが、惜しくも負けてしまいました。す

ごくもったいなかったです。

小・中・高と日本棋院の全国大会に出場してきて、今回が高3で最後でした。目標としていた予選突破にはなりませんでしたが、高専でも続けてこれて良かったです。

学校関係者の皆様ありがとうございました。



▶▶▶ 第38回 文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権全国大会成績 ◀◀◀

(平成26年7月22日～7月24日) 日本棋院会館

【個人の部】

〈予選リーグ〉 三村 優太(3B) リーグ戦1勝2敗 (予選敗退)

平成26年度 福井県高等学校少林寺拳法大会 兼 第18回 全国高等学校少林寺拳法選抜大会福井県予選会 入賞者一覧

【女子単独演武の部】

最優秀賞 2段 小島亜素佳(F1)
優秀賞 見習 小林 華奈(F1)

【男子組演武の部】

最優秀賞 6級 佐久見雄大(2C)
6級 内海安久璃(2E)

活躍する仲間

♪♪ 第46回 福井県吹奏楽コンクールに参加して♪♪

吹奏楽コンクールに参加して

私は今回の吹奏楽コンクールにはとても満足しています。部長として臨む福井県大会は全体をどうまとめていけばいいのか分からず、一人で悩むことも多々ありました。悔いの無い演奏をしたい、という言葉を信じて練習をしましたが、本番後は後悔ばかりでした。楽譜を見るだけで思いが込み上がり、どうしようもない気持ちになりましたが、出場校が1校のみということもあり、中部日本大会へ進出しました。

私はこのとき部員に、コンクールに参加しての自分の思いを皆に書いてもらいました。そこには演奏の振り返り、次への目標など様々なことが書かれており、私も次こそは後悔をしないと決心しました。ですが、夏休みや高専祭でのミニコンサートの準備などもあり、本格的なコンクールへの練習が再開したのはコンクール2週間前でした。

私はもう部長ではありませんでしたが、全体として良いものを作りあげたいという気持ちは変わりません。福井県大会で悩んでいたことも解決し、コンクールへ向けて練習しました。本番は一瞬でしたが、

吹奏楽部 4E 福嶋 宏之

私は良い演奏ができたと思います。後悔はありません。

私は今回のコンクールに参加して学んだことがあります。一つは1人で悩むより誰かに相談した方がとても心は楽ということです。1人で悩んでいると自分を追い込んでしまい、つらくなるばかりでした。もう一つは、先があるから変わることができる、ということです。福井県大会から中部日本大会へ進出が決まり、どうなってしまうのだろうと思っていたましたが、中部日本大会について真剣に考えている人もいました。福井県大会までの雰囲気では中部大会でも同じままだろうと思いましたが、大会に向けていい雰囲気で練習が進み、大会では良い演奏ができました。私たちは過去ばかりを見がちですが、未来があるから変わることができるのだろうと感じました。

たくさんのこと経験し、学べた今回のコンクールはとても良いものでした。来年も参加し、部としての活動をより良いものにできたらいいなと思います。



活躍する仲間

保育ボランティアを体験して

元気な子供たちと学んだこと

今回の神明保育所の保育ボランティアでは、多くのことについて学ぶことができ、また充実した1日を過ごすことができました。

最初は初体験の場に、緊張や不安もありましたが、保育の仕事に携わっていくに連れて、どうやったら大勢の子供たちとコミュニケーションがとれるか？や、泣いている子にどうやって対応すればいいのか？など、相手と目線を合わせ、臨機応変な対応をしようと心がける気持ちに変わって行きました。

園長先生は、園児たちは独占欲がとっても強いので、皆ができる遊びをしてあげるといいですよ。とおっしゃっていましたが、それぞれ個人でやりたいことは違い、一人一人その思いを叶えてあげることはとても難しいことだと感じました。

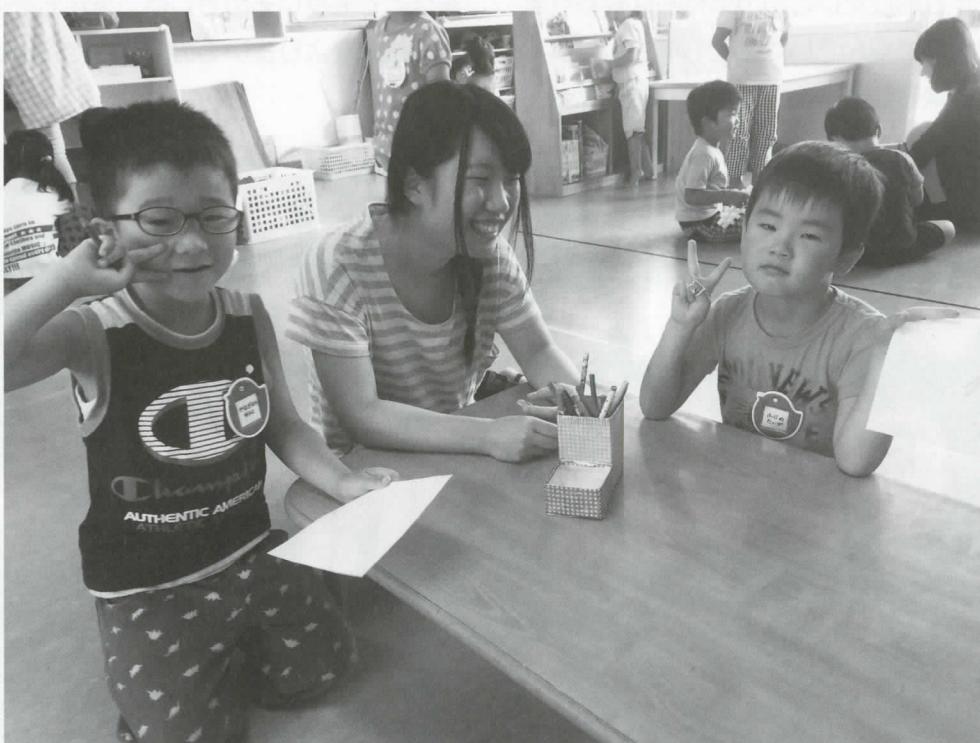
僕が、大勢の子たちに満足してもらえる遊びだと思ったものは、紙芝居でした。お昼寝前には決まつ

3E 湯 谷 宏 明

た曜日に紙芝居を読み聞かせていて、今回は僕が紙芝居を読むことになりました。僕が紙芝居を取り出すと、今までワイワイと遊んでいた子達が一目散に僕の周りに集まってくれて、真剣に見入ってくれたので、僕も気合いが入って、気持ちの入った紙芝居を読むことができました。

たくさん遊んで、帰る時間になった時、一緒に過ごしたゾウ組の子たちや他のクラスの園児たちから、また来てね！と言われ、僕は寂しさがこみ上げてきました。

子供たちとふれあって思ったことは、保育士を体験してやはりやりがいを感じ、子供たちに合わせた対応法も学ぶことができました。それに加え、子供たちと楽しい思い出もつくれて嬉しかったです。来年もボランティアがあつたら積極的に参加したいと思います。



活躍する仲間

第50回 高専祭

秋に花火を打ち上げる

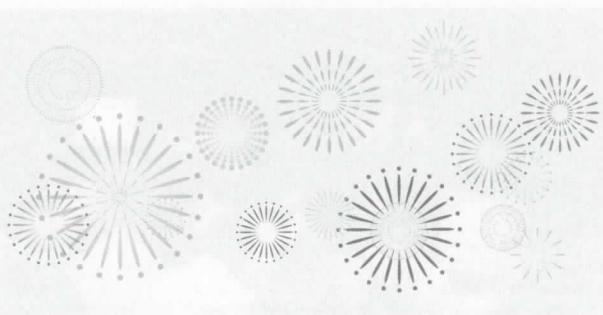
学生主事補 加 藤 敏

本年度の高専祭は例年より少し早い10月17日（金）から19日（日）に開催されました。第50回という節目もあり、「祭～半世紀最大のワッショイ!!～」のテーマの下で行われました。

昨年度まで平行して行われていた球技大会が別日程となったこともあり、専攻科を含む多数のクラスが露店を出店し、合計50店とこれまでにない賑わいがありました。露店数の増加に伴いテントやその設置場所、ゴミ処理、駐車場確保の問題などが危惧されましたが、実行委員の細やかな対応によりスムーズな運営ができました。ここ数年は開催中に雨に見舞われることが多かったようですが、本年度は実行委員諸君の日頃の行いが良いのか、晴天に恵まれたこともあり、保護者や卒業生をはじめとした多数の来客に来て頂きました。

また、本年度は学生会との共同企画として50回目を祝うように、花火の打ち上げを行いました。限られた予算内での厳しい条件ではあったものの、打ち上げられる花火を間近に実感することができ、学生諸君が感動の色を隠しきれない姿をさらけ出していたのが印象的でした。（余談ではありますが、私の家族も大喜びしておりました。）

来年度は本校創立50周年を迎えます。また大いに盛り上がる高専祭を期待しております。



祭

高専祭実行委員長 4C 宮 谷 志 保

こんにちは、宮谷です。

今回の高専祭は、1日目から3日目まで天気が良く、とれあえずほっとしました。それどころか良すぎて日焼けしました。

オープニングセレモニー、クラッカーの不発から始まり、正直3日間上手くいかず不安になりました。ローションビーチフラッグでは、参加者の学生の皆さんはもちろん、実行委員も、飛び入り参加の子も、みんな手作りローションまみれになって、手作りローションは水より全然冷たかったので、全身にかぶっていた方は本当に寒かったと思います。アンチガールズコレクションでは、美男美女ばかりという感じでした。MCの相方も美女でした。

サブステージの男気ロシアンルーレット、仮装カラオケ大会、盛り上りました。アマバンライブもゲストのライブも、たくさんの方が見に来られていきました。

鶏のからあげ、たくさんの人人がボチャンして、2センチというすごい記録がでたりしました。そして花火とbingo。花火は私が思っていた以上の豪華さでした。bingoは、時間がおしゃって最後ジャンケンになってしましましたが、景品を喜んでいただけてよかったです。

3日間を通して、FreeStyle全て、見ていて楽しかったです。露店も色々たくさん食べました。とてもおいしかったです。

2日日夜から3日朝にかけて行われた被災体験。私は、非常食コンテストに審査員として参加させていただきました。限られた食材でこんなにおいしいごはんができるなんてという感じでした。朝ごはん、お腹いっぱい食べさせてもらいました。

今年の高専祭、たくさんの笑顔が見られて、私まで笑顔になれました。ありがとうございました。

活躍する仲間

球技大会

球技大会を実施して

2M 小濱 真宏

みなさん、球技大会お疲れ様でした。今年の球技大会も盛大な盛り上がりの中、無事に終えることができました。協力してくださった先生方、実行委員の皆さんありがとうございました。

実をいうと、自分は体育系の人間ではなくどちらかというと文科系の方が好きです。こんな自分がなぜ球技大会長に選ばれたか、不思議でしたが、任命されたからには最後までやりきろうと思い頑張りました。

今年の球技大会は今までの球技大会とは一味違つたものになったと思います。今まで高専祭の前日と1日目の2日間にわたって行われていましたが、今年は丸一日使って開催されました。さらにドッジボールとサッカーという新競技も加わり新しいことばかりの球技大会でした。

球技大会当日、とても不安でした。時間通り進むのか、新競技である2つの競技は盛り上がってくれるのか、ルールはあれでよかったですのか……あれこれ考えているうちに競技が開始していました。結果、自分の予想以上にどの競技も盛り上がってきました。体育館やグラウンドから歓声が聞こえてくるたびに嬉しくなりました。トラブルもありましたが、いろんな人のおかげで乗り切ることができました。

球技大会長としていろんなことを経験することができました。この経験を生かしてこれからも色々な学校行事を盛り上げていきたいです。



弁論大会

弁論大会を実施して

3C 田中 碧

昨年は文化長の隣で文化長補佐として弁論大会を見ていきました。来年もこんなに活気のある弁論大会を運営できるのかと不安になりながら、見ていました。そして今年、文化長として実際にやってみると、やはり思ったようには進まず、たくさんの人に迷惑をかけてしまいました。テーマを決めたり、スケジュールを決めたり、新しいことを始めようと企画書を書いても問題にぶち当たってばかりです。何をしても段取りが悪く、不安で、落ち込んでばかりでした。しかし、担当の川上先生や元文化長に助けていただき、なんとか準備を進めることができました。

当日は、会場が学生や先生に埋め尽くされただけで嬉しくなったのを覚えています。弁論大会は強制参加ですが、それでも本当に学生の皆さんを見に来てくださったことがとても嬉しかったです。漢字の読み方を間違えて会場を沸かせてしまったこともあります。しかし、緊張しながらも状況を見ながら進行できたのではないかと思っています。結局、不安は弁論大会が終わるまで消えることはありませんでしたが、「お疲れ様」とたくさんの人に声をかけてもらったときにやり遂げた実感を持つことができました。

最後になりましたが、藤田先生、中村先生、川上先生、審査員の先生方、エキジビションマッチを引き受けてくださった先生方、学生会、高専祭実行委員、学生の皆さん、そしてステージで熱弁をふるってくれた弁士の皆さん、おかげさまでなんとか弁論大会を成功させることができました。本当にありがとうございました。いくら感謝しても足りないくらいです。ありがとうございました！



活躍する仲間

クリーン大作戦

クリーン大作戦

3E1 檻 波 将 司

今年も例年通り、無事クリーン大作戦を終えることが出来ました。今年は天候もよく、青空の下で行うことが出来ました。4キロから5キロメートルという長距離をゴミ拾いするということもあり、参加者の方々からの感想には、“疲れた”“距離が長い”という声が多々ありました。しかしその反面、“楽しかった”“達成感があった”などの感想もたくさん頂き、クリーン大作戦を実施して本当によかったなと思いました。ゴミ拾いは決して楽なものではないです。それでも参加者の方々は楽しくゴミ拾いして頂いて参加者の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

クリーン大作戦から帰ってきた時、たくさんのゴミを持っていて、参加者一人一人が高い意識を持って取り組んで下さっていることをひしひしと実感することが出来ました。

そして、実行委員の方々にも大変お世話になりました。厚生長の私が本部で待機している中で、実行委員の方々にはルートを先導してくれたり、クリーン大作戦後に拾ってきたゴミを分別してくれたりと、とても助けてくれました。クリーン大作戦が終わった後に小雨が降ってきてしましたが片付けも早々に終わらせててくれて無事終えることができました。

主事団の先生方もお忙しい中、時間を割いて参加して頂いた上に協力して頂いてありがとうございました。

今年のクリーン大作戦も、参加者の方々、実行委員や先生の協力もあって無事成功させることができました。本当にありがとうございました。



被災体験

被災体験を終えて

3M 蔵 孝 司

10月18日（土）から19日（日）にかけて被災体験を実施しました。私は高専生活で2度目の被災体験となりましたが、今回は運営側として被災体験を実施しました。今回の被災体験の主な内容は、避難所として指定されている福井高専の本館2F、3Fの教室に段ボールベッドを作り1泊して、翌日の朝に各チームで限られた食材・調味料で料理を作り審査員により審査、表彰を行う「非常食コンテスト」を実施するというものでした。

私は2年前の被災体験で一度本館の教室で段ボールベッドを作成して1泊したことがあるので、今回の被災体験のおおよそのイメージができていましたが、「非常食コンテスト」は今年の被災体験が初の試みだったので、当日まで不安でいっぱいでした。しかし、主事団の先生や被災体験を担当していただいた先生方のサポートもあり、自分で思っていたよりもスムーズに進行することができました。また、参加していただいた地域の方々をはじめ他の部門の実行委員などの援助のお陰で、今回の被災体験を難なく終えることができたと思っております。

参加者からは、「楽しくできた」「来年もまた参加したい」などの声を頂きました。是非、来年も被災体験を続けてもらいたいと思います。授業では学ぶことのできない、良い勉強をさせていただきました。ありがとうございました。



活躍する仲間

平成26年度 教育後援会研究奨励一覧

学科年	申請者	研究題目	指導教員名	交付金額(円)
4M	橋本 知明	ロボット「Soba江ちゃん」の開発	千徳 英介	150,000
2EI	堀口 日向	ロボット「越前口ボ根」の開発	亀山建太郎	150,000
1ES	松本 勇太	全国高専デザインコンペティション デザイン部門への参加取組(3次元デジタル・環境・空間)	江本 晃美	90,000
5B	井向 日向	デザコンプロジェクト(構造部門) ヒノキ材を用いた構造物の模型の作成	辻野 和彦	100,000
2EI	野村 弘樹	プロコン課題WT プログラミングコンテスト課題部門	斎藤 徹	19,200
5B	橋本 凉	小水力発電機および電力利用システムの製作	丸山 晃生	100,000
2M	笠嶋 遥	福井県およびその周辺における地殻活動の研究	岡本 拓夫	30,000
4E	吉村 淳也	福井高専Ene-1GPチャレンジ 充電式単三乾電池利用電気自動車の製作と走行機能評価	米田 知晃	100,000
				計 739,200

平成25年度 教育後援会奨励研究概要報告

ロボコン ~Shall We Jump?~

ロボット部 4M 橋 本 知 明

昨年度の高専ロボコンの競技課題は、「Shall We Jump？」でした。ルールとしては、高専生とジャンパーロボットが高専生と縄回しロボットが回す縄を飛び越えながら競技を進めて行くというもので、今回の私たちのロボットは「山羊の郵便屋さん」という縄跳び遊びをイメージしてジャンパーロボットを山羊、縄回しロボットを郵便ポストに模したロボットを作製しました。

詳しいロボットの機構としては、ジャンパーロボットは平行リンクを用いて二足歩行を行い、カムと引きバネを用いてジャンプ機構を確立しました。又、縄回しロボットはタイヤとキャスターを用いて走行し、縄を回す腕は駆動用のモーターとアルミ角材を用いて作製しました。夏休みや休日なども毎日活動し、メンバー全員が1つになってロボット製作に取

り組みました。昨年度は良い結果を残すことが出来ませんでしたが、メンバー全員が楽しくロボコン活動をする事が出来ました。

高専ロボットコンテストに出場して

4E 藤 原 健

この度は、私達ロボット部に高専ロボットコンテストに出場するロボット制作費として研究奨励金の申請を許可して下さりありがとうございました。

おかげさまで私達はロボット制作に必要な部品や工具等を購入することができ、春から夏にかけて目一杯ロボットの制作に取り組むことが出来ました。その甲斐もあって、平成25年度のロボコンには無事出場することに成功しました。

残念ながら良い結果を残すことはできませんでしたが、今年度の経験は私達にとってとても貴重なものになったと感じております。

活躍する仲間

今回の結果・活動上の問題点・半年を通して得た数々の教訓をもって来年度のロボコンに臨んでいく所存ですので、何卒またよろしくお願い致します。

かえる

H25年度B卒業生 田畠 昇

昨年11月、鳥取県米子市にて「かえる」をテーマに全国高専デザインコンペティションが開催された。これまで建築、土木系の学生のためのコンペであったが、今回は3次元デジタル設計造形コンテストが新たに加わり（機械工学科が主となる前CADコンテスト）、これまでの「ものづくり部門」が無くなっている、例年と異なる大会となっていた。

私たちは創造部門の「エンジニアリング・デザインを学ぶための子どもワークショップを考える」というテーマに出場した。内容としては工学を学ぶ私たちが、小学生を対象に、課題に対して解決策を考える体験を盛り込んで、普段の講義の内容を学んでもらうという条件となっていたが、遊び、体験、学習、楽しさ、エンジニアリング・デザインと盛り込む要素が多いことで企画を考える段階から大変困難だった。私たちは、災害と都市の環境について、避難経路を考えながら問題解決を目指すために、実際の小空間に山や川、橋の模型を置き、それを使い身体を動かしながら学ぶことを提案した。本戦への入選はできなかったが、自分たちが学んでいることをどう伝えるかを考え、これまでとは違った視点で授業などをみることにつながった。

全国高等専門学校デザインコンペティションに参加して

5B 井 向 日 向

昨年11月9、10日に鳥取県米子市にて第10回全国高等専門学校デザインコンペティションが開催された。私のチームはヒノキ材を用いて作成する模型の耐荷力を競う構造デザイン部門に出場した。例年の課題である2点支持構造物の模型の作成と違い、昨年の課題は4点支持構造物の模型の作成であり、新しい発想を取り入れていく必要があった。載荷試

験を行うたびに顕在化する問題を解決するために設計段階から試行錯誤を重ねた。

迎えた大会当日。私のチームは今大会にて結果を残すことは出来なかった。しかし、会場では他高専の作品から得られる新たな考えが多くあつたし、問題解決のためにチームで行うディスカッションや指導教員の方々からのアドバイスを受けて自分なりに考える過程を通して「問題解決への考察力」や、考察したことを伝える「表現力」、チーム員と協力する「チームワーク力」が磨かれたと確信している。教育後援奨励研究費を頂き、このような経験をさせて頂いたことに深く感謝する。

室内飛行ロボットコンテストへの挑戦

5EI 小林貴人

全日本学生室内飛行ロボットコンテストに出場するために、春休みから仲間とともに模型飛行機の設計、作成と自動操縦のためのプログラム作成を始めました。お手玉3個を運ぶために、普段飛ばしている室内飛行機に比べ、スパンを900mmから1000mmへと一回り大きくし翼面積を確保、それに合わせ胴体も同様に大きくしました。また、軽くするために強度を下げました。

この大会には、手動操縦部門と自動操縦部門があり、私たちは、難易度の高い自動操縦部門に挑戦しました。自動操縦部門では、360度旋回飛行と8字飛行を自動制御にて飛行させなければなりません。まずは360度旋回飛行の自動操縦から取り掛かりました。これを実現するために、加速度センサーやジャイロセンサー、地磁気センサーを用いて姿勢、高度制御のプログラミングを行いました。

模型飛行機に乗せて動作確認を行えるようになったのは8月末で、そこからの調整が一番苦労しました。エレベーターとラダーを同時に制御するためのプログラムが難しく、高度を一定に保てないことや、自動旋回を開始する時の機体の姿勢によって結果が大きくずれることが、度々起こりました。

飛行ロボットコンテスト当日の練習飛行の時まで、最後まであきらめず調整を繰り返し行つたことが功

活躍する仲間

を奏し、予選では360度旋回も8の字飛行も、うまく自動操縦ができ7位となり、決勝に進出することができます。しかし、自動制御以外の競技で焦ったことによって操作ミスをしてしまい大きく減点されたため、実力を出し切れず、最終的に7位となってしまいました。しっかり操縦できていればもっと上を目指すこともできたのに、とても残念でした。

次回は平常時の操縦をミスしないように練習を積んで優勝を狙いたいです。最後に、本活動において研究奨励金を頂けたこと、大変ありがとうございました。

第3回小水力発電アイデアコンテスト

THE研究会 5E 市橋勇志

私たちTHE研究会は、毎年開催される小水力発電アイデアコンテストに参加しました。福井高専は第2回目のコンテストから参加し、初出場にして最優秀賞である金賞、そして地域貢献賞もいただくことができました。そして昨年度、第3回のコンテストに参加しました。地元開催という大きなプレッシャーの中、教育後援会奨励金で購入した工具セットを水車の製作に、胴長を仮設置や本番での設置作業に活用させていただき、結果、優勝、地域貢献賞、効率賞、出力賞、技術大賞と、第2回以上的好成績を残すことができました。私たちはこのコンテストを通して、チームで協力してものを作るという大変さ、難しさ、そしてそれ以上に、自分たちが作ったものが世の中に認められる嬉しさを学ぶことができました。教育後援会を始め、ご協力いただいた皆様に心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

奨励研究

5C 松村岳

私たち地球物理学研究会はこの奨励研究で、地震活動や地盤特性について観測と研究を行い、特に福井県での地震活動と地球電磁気現象との関連性について統計的に調べています。本年度も昨年度に引き

続いて、研究の一環として地震発生時の減災を目的とする地震の情報を流す防災ラジオの作製にも取り組みました。

観測活動では、観測装置のメンテナンスとデータのダウンロードを池田町の今立郡池田町観測室(TIJ)で行いました。また、京都大学北陸観測所観測坑のデータを物理教室で定期的に解析しました。

現在、西山公園内に地震計を設置しており、この西山公園での地震計のデータを定期的に交換し、物理教室で解析用フォーマットに変換しています。

新たな見学先として、福井地方気象台へ見学に行き、地震計や実際の福井県の地震活動の記録図や福井地震における被害の写真などを見学してきました。これら実際の記録に触ることで、意識を新たにして今後の研究に取り組もうと思っています。

Ene-1GP(MOTEGI KV-40クラス)におけるEVエネルギー・マネジメントに関する研究について

ソーラーカー同好会 4E 中山翼

私達ソーラーカー同好会では、新たな取組みとして、エコランカーという乾電池で動く電気自動車の製作を行いました。2013年11月に栃木県のツインリンクもてぎで開催される、エネワングランプリのKV-40チャレンジという種目に出場する事を目標に日々努力をして参りましたが、初めての壁というものは高く、作業は思うように進みませんでした。その結果、大会への出場は実現できませんでしたが、多くの事を学ぶ非常に貴重な体験ができました。私達は今年度、乾電池40本が収まるケースと、DCブラシレスモーターを完成させ、アクセル機構とステアリング機構の設計までを行いました。来年度は、ボディの他、設計段階の部分を完成させて、来年度に鈴鹿サーキットで開催される大会へ出場したいと思います。

今年度、エコランカーの制作に当たり、資金等のご支援をしてくださった方々、また、技術面でご指導くださいました方々に心より感謝申し上げます。

活躍する仲間

平成26年度 キャンパスプロジェクト採択一覧

学科 学年	代表学生	テ　ー　マ	連絡教員	交付金額(円)
4EI	堀江 龍太	高専祭MAP	斎藤 徹 (電子情報工学科)	34,000
3C	松島 雛子	福井高専紹介動画制作	西 仁司 (電子情報工学科)	98,000
3B	竹島僚汰朗	雨水を積極的に活用した野球場散水設備の製作	辻野 和彦 (環境都市工学科)	100,000
4E	前川 華歩	女子寮における居住空間の断熱効果の検証について	西野 純一 (物質工学科)	100,000
3B	山崎 大嗣	環境棟玄関前空間の癒し効果向上プロジェクト	田安 正茂 (環境都市工学科)	100,000
計				432,000

平成25年度 キャンパスプロジェクト概要報告

非常階段用フットライトイルミネーション製作

H25年度EI卒業生
現在 株式会社サカイエルコム勤務 小濱 雄太

私たちは非常階段用照明装置を作りました。よく利用していた電子情報工学科棟東側の階段を明るくしてほしいという願いと、当時関心のあったマイコンによるLED制御が結びつき、それらを実現することができました。まず状況と要件を分析し、最適な材料や部品を検討しました。最終的には1階から4階までの照明が全点灯した時の消費電力が約6Wで、夜間昇降時でも充分に明るい照明装置が完成しました。省エネを考え、照度・人感センサを組み込み、フロア制御によって必要な時に必要な部分だけ点灯させるようにしました。さらにスイッチやAndroidアプリでイルミネーションを操作でき、見て楽しめる照明装置にしました。自分の関心のあることを、身の回りの問題に適用して、自由に創作する機会というものはなかなかないと思います。そのような活動の場を提供していただいた高専に感謝しています。私はもう学生ではありませんが、学生の方にはこのような機会を活かして積極的にチャレンジしてほしいと思います。

老朽化に伴う新規ゴミステーションの製作

1PS 畠矢弦輝

学寮のゴミステーションは老朽化が進んでいるだけでなく、渡り廊下から外に出てゴミを捨てなければならない不便さ、冬季には雪に埋もれてしまう問題もありました。そこで、私たちはこれらの問題を全て解決すべく新たなゴミステーションの製作を提案しました。作業は大雨の中での基礎の打設から始まり、骨組みの構築では新たに取り付けた扉が上手く開閉しないなど、決して順調に進んでいるとは言えない状況が続きました。それでもプロジェクトに携わったメンバー全員の力、メンバーの出身学科が持つ知識を駆使しながら一つ一つの作業を確実に進めていき、田中建設様とカラヤ様のお力を借りてゴミステーションを完成させることができました。完成了したゴミステーションは耐腐食性に優れ、様々な天候に強く、渡り廊下からゴミが捨てることが可能となりました。最後になりますが、無償で技術指導をしてくださいました田中建設様とカラヤ様に深い感謝の意を表します。

活躍する仲間

手作りトンボで野球場整備

4E1 藤田 清司郎

硬式野球部では木材を加工しグラウンド整備用のトンボを作製した。既製品だと高価でありながら破損しやすいため、本数が足りない状況にあった。そこで、自分達で木材を加工し製作した方が経済的と考え、夏休みを利用してトンボを手作りした。

当初、発注した寸法よりも大きい材料が届くというトラブルが発生したが、B科の部員がCADで図面を作成していたのでこれを修正して対応した。B科の実験室にあるノコギリやボール盤を用いて木材の切断、穴あけに取り掛かった。トンボの持ちやすさを考慮してカンナやヤスリで取手を丸くする工夫を施した。

今回のプロジェクトでは、トンボを25本製作することができた。このトンボで毎日整備を続けた結果、雑草が減り野球場が綺麗になった。この取り組みは、高学年チームの全国大会出場、低学年チームの選手権大会一勝につながったと思う。自分達が使う場所や道具を大切にする心も培われた。このプロジェクトは硬式野球部にとって貴重な経験となった。

キャンパスプロジェクトを終えて

3E 清水 大雅

僕は、キャンパスプロジェクトの一環で焼き芋機の制作を行った。きっかけは、その年の寮祭で、焼き芋をする手伝いをしていましたからという、小さいなことだった。

制作にあたり、まずは焼き芋機を借りている方の所に行き、寸法や形状を確認した。次に、その寸法を基準にして、CADを使って図面を作製した。その図面を鉄工所に持つて、焼き芋機の本体部分の制作を依頼した。プロジェクトチームでは、焼き芋機のフタの取っ手や、その取り付けのための穴あけを行った。

焼き芋機が完成し、今年度の寮祭では実際に運用も行った。寮生の反応はとても良く好評だった。しかし、課題も見つかった。一つは、本体の大きさが借りていた物より大きく、焼き芋が出来上がるのに従来の1.4倍の時間を要するようになったこと。2つ目は、外気温によって出来上がりの時間が大きく左右されることである。どちらの課題も、次年度のキャンパスプロジェクトに参加し、改善できるようにしたい。

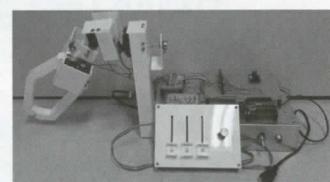
ロボットアーム製作

1PS 内山 直弥

私たちは福井高専キャンパスプロジェクトの機会を活かしアームの上下、回転、つかみ動作を実現できコントローラで制御することのできるロボットアームの製作に取り組んだ。

製作したロボットアームはスライド可変抵抗器からなるコントローラ部、モータとセンサによる上下、回転、つかみ動作を実現するアーム部、センサからの情報を処理しモータを制御する回路部で構成される。コントローラの可変抵抗器の抵抗値にアーム可動部の可変抵抗器（センサ）の値が追従するように回路部でアームをコントロールする仕組みである。この仕組みにより徐々にモータの回転数を落とし「そっとつかむ」動作を実現できた。

製作を終えて専門の分野である電気に関する知識だけではなく、ロボットを制御する情報処理の知識やロボット作製に必要な機械工学に関連した知識など幅広い分野の知識を身に付けることと社会的スキルを向上させることの二つの目的を達成できた。



キャンパスプロジェクトによるPico-EV製作

5M 金子 祐樹

私たちは、昨年度のキャンパスプロジェクトに応募し、Pico-EV：小型電気自動車の製作及びPico-EVエコチャレンジに参加しました。

計画、設計、製作メンバーとしてサイエンスクラブ部員が中心となり、約2か月かけて軽量で持ち運びができるなどをコンセプトとした車体を作製しました。設計にあたって、人が乗車し運転するものでありながら軽量が必要とされたため、様々な計算を行って必要な最小強度を検討しました。また、電気自動車ゆえに電源である電池をできるだけ長持ちさせられるよう回路の工夫も行いました。

そして完成した車体を持って2014年3月1日に東京高専で行われた大会に参加しました。大会は30分で何キロメートル走れるか競うものです。しかし、思うような記録は出せず15チーム中13位という残念な結果に終わってしまいました。しかしながら、Pico-EVエコチャレンジに挑戦し、初参加で本大会で走行し記録を残せたところを評価され、

活躍する仲間・学生の将来と進路

チャレンジ賞をいただくことができました。

本プロジェクトに応募し大会に参加して、他チームのアイデアや実現するための技術を見学すること

ができ、よい勉強になりました。今後も、得られた経験を機会に応用し、改めて大会に参加し良い結果を残せるよう努力したいと思います。

進路決定について

早期からの生涯設計の奨め

正に今最終的な進路の選択が始まる4年生と専攻科生について、来年から就職活動の時期が大きく変更になると言われる一方、皆さんがインターンシップで実習した企業には、採用活動時期を変えないあるいは検討中とする会社が非常に多く、混沌とした状況です。皆さんにとって有利な進路の決定が進むように担任・専攻科委員の先生方と協力して情報を提供していくますが、皆さん自身も、担当の先生がたと連絡を取りながら、自分の将来を設計する意識をさらに高め、就職対策講座、検索システムや合同企業説明会などを通じて、企業や進学先の研究を怠ることなく進めてください。1年後には必ず希望の進路が決定しているものと信じます。

私は、若い頃、将来展望がないまま、ただ数学が好きという理由で大学の理学部へ進学しました。当時は高度成長期で、優秀な人は企業へ行くから、適当な勉強で院へ進もうと甘く考えていました。しかし、経済が突然のstagflationへ落ち、進学できなくなってしまった、ようやく自分の適性を考え始め、長い曲折の末に、高専での職と学位を得ることができました。無駄な経験ではないものの、もし、早くから、きちんとした生涯設計を考えていれば、もっと多くの有益な経験と能力を得ていたのではという悔いがあります。

日本では、10年ほど前から、neetの増加などの

キャリア支援室長 下條 雅史

若者の勤労意欲の低下から、早期からのキャリア教育の必要性が説かれるようになり、本校でも、新キャリア教育として、低学年では、従来の見学旅行・校外研修に加え、卒業後の進路の選択について聴講するキャリアガイダンスが開かれています。今年は、3年生のガイダンスに本校1期卒業生の山本敬一氏を迎え、「仕事を選ぶ際には、何を優先させるか順番を付けておくこと、就職から定年までの役割や求められる能力の変遷」など、正に生涯設計の大変参考となる講演をいただきました。他にも、企業経営者の方から働くことの意義や社会が求める能力を伺う「職業研究セミナー」、5年生・専攻科生の経験を聞く先輩フォーラムなどがあります。

幸い、ここ数年で求人数はリーマンショック前に回復しましたが、工ボラ熱の流行、中国経済の失速の可能性などの不安要素も多く存在します。その時代の社会情勢やその人の成長に従って、将来の展望は変わるものですね。しかし、若い頃に生涯設計を考えていない人は、社会が求める能力についての関心も薄く、大きな経済的混乱に容易に飲まれモラトリアムを彷徨う不幸な期間が長くなりがちです。是非これらの行事を機会に、現在から遠い将来にわたる自分の理想像とそれを実現するための日ごろの努力について考え実行していただきたいと思います。

平成26年度進路内定状況

平成26年11月25日現在

学科	区分	卒業・修了 予定者数	進学 希望者数	内定者数			未定 者数	就職 希望者数	内定者数		未定 者数	その他
				大学(院)	専攻科	専門学校			県内	県外		
本 科	機械工学科	34 (1)	15	9	5	1	0	19 (1)	4	14 (1)	1	0
	電気電子工学科	38 (2)	14(1)	8	6(1)	0	0	24 (1)	9	15 (1)	0	0
	電子情報工学科	37 (4)	17(1)	14(1)	2	0	1	18 (3)	8(2)	10 (1)	0	2
	物質工学科	37(11)	20(3)	9	8(2)	0	3(1)	17 (8)	6(4)	11 (4)	0	0
	環境都市工学科	31 (7)	10(2)	4	5(2)	1	0	21 (5)	6(2)	13 (3)	2	0
	小計	177(25)	76(7)	44(1)	26(5)	2	4(1)	99(18)	33(8)	63(10)	3	2
専 攻 科	生産システム工学専攻	13 (1)	3	0			0	3	10 (1)	7	3 (1)	0
	環境システム工学専攻	7 (1)	0	0			0	0	7 (1)	3	2 (1)	2
	小計	20 (2)	3	0			0	3	17 (2)	10	5 (2)	2
合 計		197(27)	79(7)	44(1)	26(5)	2	7(1)	116(20)	43(8)	68(12)	5	2

表中の()は女子数で内数

学生の将来と進路

大学編入学試験体験記

編入試験ヒストリー

5M ノル アマルル

私は高専に入学したときから大学への編入学を希望していました。将来、母国に帰国したとき、学歴があるのは就職に有利だからです。大学へ進学するために、推薦を貰いたいと思いました。推薦が貰えれば、進学が楽に叶うと思ったからです。留学生にとって日々の勉強は大変です。なぜかというと、授業が日本語で行われるから。日本人の学生に比べて2倍の努力が必要になります。推薦のことがずっと頭にあり、大変でしたが、勉強は頑張りました。その甲斐あって、学校推薦で編入学試験を受験できることになりました。

結果は不合格。留学生にとって30分の面接は大変です。なぜかというと自分の言いたいことが日本語では伝え難いからです。推薦だから落ちるはずがないと思っていたが、結果は不合格。とても悲しかったです。落ちるはずがないと思い込んでいて、学力試験の準備はあまりしていませんでした。学力試験まで1ヶ月しかありません。合格するわけがないと思いましたが、できるだけやってみようとしたがんばりました。この1ヶ月は期末試験も重なってとても辛かったです。なんとか合格できました。嬉しかったです。

進学を考える人は、受験勉強を早めに始めたほうが良いです。そして、1校の編入学試験で安心しないでください。いつも最悪のことを考えて準備しましょう。受験勉強のアドバイスとしては、過去問ばかりは駄目です。なぜなら同じ問題は出ないから。しっかりと勉強をした後に、やることが無くなったらやる程度で良いと思います。また、受験勉強仲間をたくさん作りましょう。なぜなら仲間同士で受験への気持ちを高め合えるからです。周りの友人の支えがあったからこそ、合格という結果を得ることができました。

就職試験体験記

楽しかった就職活動

5E1 狩野 拓郎

楽しい訳がない。就職氷河期にも関わらず圧倒的就職率を誇る高専。そんな有利な学校で就職活動に苦戦した私。したいことがはっきりと決まっていたわけでもなく、将来の像があやふやだったため企業選びに時間がかかった。

まずは面接の練習だ。1社目の面接時期が早かつたため焦りつつ準備を進めた。

「福井工業高等専門学校から来ました、電子情報工学科、狩野拓郎です。」

言いにくい。福井高専でもいいのではないかと考えたが、短いと印象に残りにくいそうだ。仕舞いには自分の名前さえ噛んでしまう始末。そんなこんなで1社目はあっさり落ちた。

企業ごとに履歴書は書き直さなくてはならない。学校指定の履歴書はあるが、企業によっては指定の履歴書への記入を求められるところもあった。企業によって求める人材像は違う。そのため企業に合わせて自分のアピールの仕方を変えなければならない。客観的に自分を分析することに慣れておらず、自分が分からなくなることもあった。

ポンポンポンとあっという間に4社落ちた。不採用通知が届く度、自分を否定されている気がしてひどく落ち込んだ。

そんな時、友人から1冊の本をもらった。

「もうダメだ!と思ったら読む本」

突っ込む気力も起きなかった。しかし気にかけてくれているという気持ちは嬉しく元気が出た。

その本のおかげではないが、なんとか1社目の企業に内々定をいただき、来年度からその企業で働かせていただけたことになった。就職活動を通じて多くの人に協力していただいた。決して楽しいとは感じなかつたが、入社後、数十人の同期達と思い出話として楽しく笑えれば幸いである。

インターンシップ体験記(本科)

ただちに困難と取り組め

4B 本 谷 嶽

8月中旬の5日間、私は田中建設株式会社の皆さんにお世話になった。高専からも拙宅からも近い距離にあり、以前から馴染みのある社名であった。「普段外から見ているこの企業は、中から見るとどうなのだろうか」ということで志望した次第である。

補修工事などを行っている現場というのは私たちもよく目にする光景である。しかし、その仕事は注意深く忍耐を要するものであった。工事に使われた材料やその為の準備は、細かく決定された工程表と食い違いが起きぬよう着々と、正確かつ安全に進められる。苦しく危険な職種ではあるが、その分私自身もやりがいを感じたし、先輩方の後に續いて「つくり続けなければならない」と考えた。それらの記録は写真に収めるなどして保管され、予定された強度をもつように補修された証明書となる。私たちが安全かつ快適に道路や橋、建築物を利用できる裏には彼らの活躍があるのだ。

今回の校外実習で私が学び得たことは、「現在自分が行っている学習は意味のあることで、将来の自分には欠かすことのできないものである」ということだ。何だかんだと義務教育が終わっても尚「将来この知識を使う日が来るだろうか」と思ってしまうものである。しかし今なら、その疑問に自信を持つて「来る」と言える。学生であるうちに準備できることは沢山あるのだ。

表題はスマイルズが『自助論』の中で引用した法律家リンドハーストの言葉の一部である。私たちが社会で活躍する道を阻む困難に対して、今から取り組むという意思を表明したものだが、その言葉は「困難は乗り越えるためにある」から始まる。

インターンシップから学んだこと

4C 八 田 文 菜

私は合成ゴムを製造しているJSR株式会社鹿島工場にインターンシップに行きました。私は将来、県外の会社に就活したいと考えているので、化学系で県外にある会社を選びました。私たちが使う物を製造している会社はよく知られていますが、JSRが何を作っているのか、ほとんどの人がわからないと思います。正直私もパソコンで調べてはじめてJSRさんのことを知りました。JSRが作っている合成ゴムは、車のタイヤ、窓枠、ワイパーなどに使われています。例えば、タイヤ屋さんのDUNLOPは有名ですが、そこでタイヤをつくるためのゴムをJSRでは製造しています。

私が実習させてもらったのは、品質管理や品質保証の部署でした。良い製品が出来ているか検査したりするだけでなく、もっと良くするにはどうしたらいいか、というのを考えていました。今の生産が良くても、5年後10年後に同じように良いとは限らないから、会社では常に先の事を考えていないといけないと言っていたのが心に残っています。また、基準から外れる製品の原因をデータ解析をして見つけるという実習をしました。難しかったけれど、原因が明白になり、それをコントロールすることでより良い生産につながっていくと分かりました。上手くいかない事があっても、やみくもに変えたり、諦めたりせず、まずは原因を見つける事が大事だと思いました。

社内の雰囲気は良く、仕事と休憩のONとOFFがはっきりしていました。また、説明が分かりやすく、見習いたいと思いました。インターンシップを終えて、就職への不安が自信になったので良かったです。

学生の将来と進路

インターンシップ体験記(専攻科)

福井大学でのインターンシップ

1PS 中 西 朋 也

8月25日から9月22日までインターンシップとして、福井大学で研修をしてきました。本科4年生の時は、1週間程度のインターンシップでしたが、今回は約1か月の期間がありました。

なぜ企業ではなく、大学へ研修に行ったのかというと、僕は進学希望があるので、大学に研修に行きました。研修先の研究室は、特別研究の指導教員の方に勧められて決定しました。最初は、研修先の研究室の方とメールでやり取りをして、日時や持ち物、研修内容について相談しました。研修内容が決定すると、その内容に関する予習等の宿題がありました。

初日から、5日間は福井大学の3年生も10名程度参加した、講義が主でした。その時、一緒に講義を受けていた福井大学生の中に本科の時の同級生がありました。福井大学に行くときにもしかしたら会えるかもしれないと思っていましたが、本当に再会する事になり、少し驚きました。講義の内容は、初めてのことばかりで、分らないところもありましたが、他の受講者たちと教え合い理解する事が出来ました。2週目からは、僕は研究室で研修を受けました。研修内容は、僕が希望した「CPUの設計」でした。難しく悩んだ時もありましたが、研究室に配属されている先輩方に助言をいただき完成する事が出来ました。

この研修では、福井大学の先輩方や教員の方がやさしくいろいろ教えてもらう事が出来たので、うれしかったです。また、研修内容は授業で習っていることの応用なので、研修内容を理解して、また教科書や授業を受けると良くわかり、研修をしてよかったです。

海外インターンシップを 体験して(専攻科)タイ

コープ クン クラップ

1PS 高 橋 隆 造

在校生の皆さんは、海外に行ったことがあるでしょうか。行ったことがあるとするなら、それは大半が旅行や留学、ホームステイといったものでしょう。今回私は、それらに該当しない、「企業」への研修として、タイの首都バンコクを訪れました。

最低限の英語が話せれば良い。それが、研修が始まる前の私の考えでした。私は中学の頃に、交換留学としてオーストラリアに2週間ホームステイした経験があり、中学生の語学力でも、なんとかなった覚えがあったからです。何年前の話だよと言われ兼ねませんが、それでも、何のテキストも持ち込まない程度に、私の中には変な自信がありました。

しかし、現実とは厳しいもので、海外に着いて早々に英語が通じないという壁に対面し、借りてきた猫よろしく愛想はそれなりに、内心では頭を抱えました。会社には日本語が堪能なタイ人の方がいましたが、その方は会社にとって貴重な人材であるため、常に私の傍に居るわけではありません。実習も、タイ人の従業員に囲まれてのものでした。

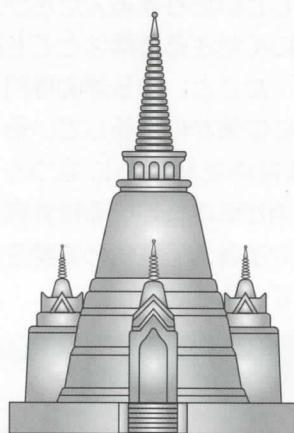
そんなこんなで、最初は不安しかありませんでした。しかし、人間とは追い込まれる程真価を發揮する生き物のようで、日本人社員さんから貸して頂いたタイ語テキストを読み漁り、積極的に職場の方々と会話をし、宿泊先から色々な場所へ足を延ばして文化に触れ、そしてタイ人の方々の、優しく、フレンドリーな人柄に助けられながら、最後には片言で日常会話ができる程度にタイ語が身に付きました。海外に長期滞在すると語学が身に付きやすい。これ、嘘ではないようです。

海外で仕事をしているから、語学が堪能だから偉いということはありません。しかし、昨今では様々

学生の将来と進路

な企業が海外に進出し、多くのエンジニアが、日本の誇りと高い技術を活かして、水平線の向こうで働いているのは事実です。私はそんな方々を尊敬し、また、自分もそうあればたらと思っています。その思いは、今回の研修でさらに強くなりました。

正直お金はかかりましたが、学生である今だからこそ出来る経験です。感じ方は人それぞれと思いますが、私は今回のような経験を、「今このときに」できたことに、深く感謝します。



海外インターンシップ(タイPSU)を体験して

1ES 田邊祐真

8月17日～9月13日までの約4週間、私はタイのハジャイという町にあるPrince of Songkla Universityという大学に研修に行った。

PSUでの研修では消波ブロックに関する研究室のプロジェクトチームに入れて頂き、研究室の指導教官であるPayom先生の指導のもと、毎日のように実験やタイ国内のあちこちで開かれているミーティングに参加させて頂くなど、多くの他には変えられない経験をさせて頂いた。それだけでなくPayom先生からは本当に多くの事を学んだ。この4週間無駄な時間は1日も無かった。

海外留学の経験もなく、英語も得意な方ではない、そして何よりも今年は私一人での研修という事つまり誰も日本語が通じる人がいないという事、出発するまで心配事は尽きなかった。そして実際に現地について心配事はすべて吹き飛んだ。現地で出会ったタイ人も含め色々な国の人達一人一人が本当に優しかったからである。そんなみんなと友達になりたい。その気持ち一つで下手な英語でもとにかくみんなに話しかけた。その結果、一人で過ごした日は1日もなかった。みんなと毎晩夜遅くまで色々な事を語り合い、そこでも多くのことを学んだ。「本当にやって良かった」日本に帰った時心からそう思えたのは、この研修を支えて下さった高専とPSUの先生方、そしてタイで出会ったみんなのおかげである。そんな皆様にこの場を借りて心より深く感謝いたします。



学生の将来と進路

専攻科海外研修を体験して

Dear You Guys, TenQ~!!

2PS 山 中 宏 祥

昨年度、私はタイ王国の南部に位置するハジャイという都市にある、Prince of Songkla大学 (PSU) で1ヶ月間のインターンシップを行いました。その時、「来年もここで必ず1ヶ月の海外研修をする」という目標を立て、計画し、実行してきましたーそして、2014年の8月19日に私は再びハジャイに足を踏み入れました。幸運にも、今回も日本人とは遭遇しませんでした。

現地では家庭教師のボランティアをしたり、現地のゴム工場や病院を見学したり、異国の宗教文化を体験してみたり、見ず知らずのお爺さんに「お前は生き別れの孫」と言われたり（私の祖父は既に他界しています）。これらの貴重な体験が自身の糧になっていると、私は確信しています。ところで、グローバルな人材とは一体何なのでしょうか。私には全

く分かりません。ですが、異国の文化・慣習を尊重し、それを行動に移す事は決して忘れませんでした。

この研修を終えて確かに分かった事があります。それは、自分はまだ何も分かっていないという事です。心からそれを痛感しました。そして、また新たな目標ができました。次に現地でお世話になった皆さんと再会した時、胸を張って彼らに自身の話ができるよう、これからも逃げずに困難に立ち向かっていきます。本校とPSUとの素晴らしい交流が今後も続くことを心から願っています。



専攻科生による校外発表会(北陸技術交流テクノフェア)

シーズ発表を終えて

2ES 住 田 裕 亮

10月16日から17日までの2日間にわたって福井県産業会館で北陸技術テクノフェアという催しが開催された。北陸内外の技術が集合といった触れ込みで開催されているこのイベントも今年で25回目という節目を迎え、特別展示なども開催されているなかシーズ発表という名目で私達福井高専専攻科の学生たちも校外発表を行うために参加していた。毎年多くの人々が様々な大学、企業の発表を見るために訪れ、今年もまた多くの人々が来場していた。専攻科生にとっては去年、1年生であった時にも先輩方の発表を見るために訪れているため、ある程度勝手を知った発表会である。どのような形で発表を行うのかは知っていたが、実際に自分たちが発表するとなるとこれはまた勝手が違う。自分たちの発表を聞きにふらりと立ち寄る人たちに発表するのだ。高専での生活の上で知り合った人たちが来たかと思えば、まったく顔すら知らない人たちがポスターの前で立ち止まるのを見て、緊張で心がざわついた。発表を聞く人たちの殆どは実際に専門の仕事をしてい

たり、研究をしていたりする人たちが殆どだ。その人たちがたまにくださる指摘はとても鋭く、自分達が気づかなかったこと、自分達の専門とは違うけれど発表の内容には確かに関係していることなど目を見張るような視点を私たちに気づかせてくれる。様々な発表交流が成されている校外発表会への参加は自らの学びや今後の研究への姿勢を見つめ直す良い機会になっていると思う。



中学生の皆さんへ

：キャンパスツアー2014及びキャンパスリサーチ2014の開催について：

本校夏のオープンキャンパス「キャンバスツアーアー2014」及び秋のオープンキャンパス「キャンパスリサーチ2014」が、それぞれ8月2日（土）と10月4日（土）に行われました。

福井高専では、オープンキャンパスを春・夏・秋と年3回実施しています。春のオープンキャンパスで学校の施設や部活動を見学して学校に興味を持ち、夏には各学科で具体的にどんなことを学ぶのかを知り、秋に志望学科のデモ授業を実際に体験して、徐々に本校への進学意志を固めてもらおうという趣旨です。

オープンキャンパス第2弾となる「キャンバスツアーアー2014」は、セミの鳴き声がキャンパスに響く中、中学校の生徒、保護者、教員併せて、昨年と比較し若干名増加の683名の参加をいただきました。参加者は、本校の1年生に案内され、約3時間をかけて校内を回り、各学科のデモ実験を見学しました。

教務主事 上島晃智

在校生のホンネを聞く「交流コーナー」や、保護者、教員対象の「進路相談コーナー」も併せて開催されました。「在学生と直接接する機会は、非常に有益だった」、「ハキハキと説明をする在校生がかっこよかった」という、ありがたいご意見を多数いただきました。

また、オープンキャンパス第3弾となる「キャンパスリサーチ2014」は、秋の気配漂う中、中学3年生256名（昨年比34名増加）の参加がありました。

参加した生徒たちは、希望した2学科の授業を各50分で体験しました。

また、入試相談コーナーも併せて開催され、保護者の方が熱心に質問をする姿が多く見られました。

このように、ほぼ1年を通してオープンキャンパスを開催し、多くの中学生や保護者の方々とお会いしてきました。来春、一人でも多くの方と、このキャンパスで再会できることを楽しみにしています。

キャンバスツアーアー2014
電気電子工学科の様子



キャンバスリサーチ2014
電子情報工学科の様子



中学生の皆さんへ・学園通信

中学校だより

明道中学校は今、新校舎の建設が急ピッチでおこなわれています。3年生は、夏は息苦しくなるほど暑さになり、冬は体の芯まで凍るような寒さの仮設校舎で、きたるべき受験に備え日々勉強にいそしんでいます。

今年の3年生もいろいろな所で頑張ってくれています。6月の連合音楽会では「小さな空」、「わが抒情詩」の二曲の無伴奏曲（アカペラ）に挑戦し、好評を得ました。

夏の県中体連では、バスケットボールがアベック優勝。北信越大会には7競技が出場。全国大会には7人が出場しました。また、吹奏楽部は県のコンクールで金賞を獲得し、北陸吹奏楽コンクールに出場。合唱部も県の合唱コンクールで金賞を獲得し、中部支部大会に出場しました。その他にも、写生画コンクールで知事賞を得たり、県英語弁論大会で1位を

明道中学校から

福井市立 明道中学校

獲得し、全国大会の出場権を獲得したりすることもできました。

学校祭では（ultimate 究極の祭り）と称して、体育祭、文化祭共に盛り上りました。

現在、新校舎は5階部分まで建ち上がり、シートで全体が覆われているため、中までは見えませんが、内装部分もできあがっているようです。

来年は5階建ての新校舎で、ニュー明道として頑張ってくれると思います。



平成26年度献血推進協力団体等厚生労働大臣感謝状伝達式

今年7月、本校が永年にわたる献血事業推進に協力しているという功績に対し、平成26年度献血推進協力団体等厚生労働大臣感謝状の贈呈を受けました。これは、毎年高専祭や健康診断時等で献血を実施している実績に対し贈られたものです。

10月16日、弁論大会のため体育館に集合した学生を代表し、学生会長の前田倫也君に、校長より感謝状の伝達を行いました。



救急救命講習会・実技講習会について

AED講習会

今回のAED講習会には剣道部の一員として参加しました。AEDとは、自動体外式除細動機のこと、突然心臓が正常に拍動できなくなった心停止状態の

4M 友 広 智

心臓に対して電気ショックを行い、心臓を正常リズムに戻すことができる。現在の日本では公共施設に広く設置され、万一の事態が発生しても対応する

中学生の皆さんへ・学園通信

ことができる。しかし、本当に目の前で人が倒れた場合に助けることができるだろうか。「他の誰かがやってくれる」「使用法がわからないから」と考え、行動しない人が多いというイメージがある。

一度AEDを使用するとわかるが、起動すると音声による説明が入る。そのためAEDの使用経験がなくても使用することができる。より正確に、そしてAEDの使用前後の流れを知つてもらうためにぜひAEDの講習会に参加してもらいたい。消防士さんの実体験からの話を聞くことができ、心停止からの行動によってどれだけの人が生存し、さらに社会復帰できたかを知ることができる。

AEDの説明の音声は非常にゆっくりで、長い間をとる。もし、個人がそれぞれAEDの正確な使用手順をわかっていればAEDの音声説明が不要になり、よりすばやく人命救助を行うことができる。

AEDの使用は人命救助に直接つながるため、どのような事態に遭遇しても冷静に使用できるようにしてほしい。特に自動車免許を持っている人は次回のAED講習会にぜひ参加し、再び使用手順を覚えてもらいたい。(なお、AED講習会は7月31日に行われ、学生60名、教職員9名が参加した)



〔オーブンラボの開催 -地域に開かれたテクノサポート拠点を目指して-〕

地域連携主事 吉田 雅穂

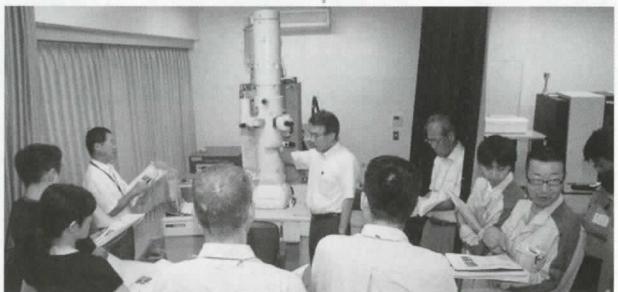
今年のノーベル物理学賞は青色発光ダイオードを発明した日本人3名が受賞しました。そのうちのお一人、カリフォルニア大学サンタバーバラ校の中村修二教授（60歳）は、徳島大学工学部電子工学科を卒業後、同大学院を修了し、徳島県阿南市に本社のある日亜化学工業株式会社に入社、開発課の技術者として青色発光ダイオードの開発に取り組んできました。34歳の時にはフロリダ大学に1年間留学し、そこで研究意欲をさらに高め、45歳で退職し渡米します。

受賞後、日本に帰国したときのインタビューで中村氏はこう話しています。「日亜化学工業で働いていた頃、母校、徳島大学の設備を自由に使わせてもらった。地方で研究を行う前提として、大学が近くにあることが大事だ。大学は設備や頭脳を企業にもっと開放するべきだ。研究開発やベンチャービジネスは、静かな環境で研究に集中できる地方に向いている。」この中の大学を福井高専に置き換えることもできそうです。

さて、本校では平成25年度に国の補助を受けて、

教育や研究、技術開発のための高度な分析装置、試験機、加工機等を数多く導入しました。そこで、これらを地域の方々に広く紹介する「福井高専オープンラボ」を7月25日に開催しました。県内企業24社から卒業生を含む37名の方が参加し、各学科・教室や地域連携テクノセンターの設備を見学して頂きました。

本校では今年度から、産学連携、知的財産、共同教育、地域連携を担当する4名のコーディネーターを外部から任用し、地域に開かれたテクノサポートの拠点を目指す活動を始めています。今後、これらのことがきっかけとなり、地域企業との共同研究や連携事業が推進されることを願っています。



学園通信

女子中学生と保護者のための体験学習＆懇談会の実施について

女子中学生と保護者のための体験学習 & 懇談会

企画室員 佐 藤 匡

去る9月20日（土）、女子中学生の理工系分野への進路選択支援を目的に「女子中学生と保護者のための体験学習＆懇談会」を開催した。本企画は今年で6回目を迎え、当日は中学3年生32名、その保護者22名、計54名の参加があった。参加者数はほぼ一昨年並であったが、参加者の全てが3年生であったのは平成21年度に本企画が実施されるようになってから初めてのことであり、進路選択の一助となる本校恒例行事として認識してきた感がある。

参加者には5学科とサイエンスクラブをあわせた6コースから3コースを事前に選択して頂き、日常生活に関係深い各学科等の代表的なものづくりやデモ実験を本校女子学生指導の下で体験して頂くことで、理工系分野への興味・関心を抱く機会を提供した。

体験学習後は、一昨年度から導入した取り組みである、本校OGによる基調講演を行った。OG（株式会社ウォンツ 寺下有花氏）には「女子高専生の歩き方」と題して理工系の女性が社会へ参画していく素晴らしさと楽しさを、実体験を基に語って頂いた。また、初の取り組みとして、女性技術者の活用

に力を入れている西島製作所様から頂いた、女性技術者を目指す女子学生・生徒に向けてのビデオレターを上映した。

講演後は前述のOGを交え、例年同様女子学生の進行による懇談会を実施した。懇談会は終始和やかな雰囲気で進み、参加者からの女性ならではの質問・疑問に対して、女子学生達は素直な姿勢で経験談を交えながら回答していた。なお、希望者には懇談会終了後に女子寮を見学して頂いた。

本企画終了後に行ったアンケートによると、参加した女子中学生全員から本企画に「とても満足」「満足」との回答を得ることができた。自由記述欄では、本校に対する認識を深めた他、本校卒業後の進路、結婚、出産とその後の復職に至るまでの具体的イメージが掴めたという主旨の回答があった。今回の参加者の中から、一人でも多くの女子中学生が実際に理工系分野を選択し、技術者・研究者として将来活躍することになれば幸いである。

本企画の開催にあたり、本校女子学生を始め教職員の皆様のご支援とご協力を頂きました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。



学園通信

平成26年度 防災訓練の実施について

総務課

本校では、10月2日（木）に鯖江・丹生消防署協力のもと全校学生・教職員が参加し、緊急地震速報の後、地震の発生と地震に伴う火災が発生したとの想定で防災訓練を実施した。

避難場所（体育館）での点呼確認の後、校長より「御嶽山が突然噴火したように災害はいつ起こるか分からない、危険を回避するにはどうすれば良いかを日頃から考えておく事が大切である」との訓辞があり、消防署からは、「常日頃から、地震や火災が発生した場合には、自分の命は自分で守るという気持ちをもち、迅速で落ち着いた行動を心がけるように」との講評があった。

避難訓練の後、1年生全員が煙で一杯になった教室の中を通ることで煙の怖さを体験し、防災に対する意識の高揚を図った。



講評をする鯖江・丹生消防署員



けむり体験をする学生

平成26年度 学寮防災訓練の実施について

寮務主事補 西城理志

例年行われている学寮での防災訓練を、8月5日（火）20時より鯖江・丹生消防組合立ち会いのもとで実施しました。東寮の二階より出火したという想定で、通報訓練、避難訓練、初期消火訓練を行い、最後に講評と共に防災に対する心構えなどを消防組合の方にしていただきました。

夜間の訓練ということで、寮監以外は学生しかいないという難しい想定の中、学生主体でも静かに避難を行う姿が印象的でした。当日は風が強かったため、当初予定されていた初期消火訓練における消火体験は、水消火器での訓練に変更になりましたが、上級生による「火事だー！」の掛け声のもとの消火は、火事における火災周知の重要性を良く示す良い手本になったと思います。

消防組合からの講評では、煙の恐さや、周囲に対するはっきりとした行動指示などに対する講話をいただきました。最後に消火栓を実際に使用した放水



訓練を上級生を中心に行いました。

将来技術者となる高専生は、火災などに繋がる事態に直面する可能性は高いため、日頃から防災への意識を高く持つことが重要です。自宅や学校とは異なる、生活空間における集団での防災訓練は、普段とは違う視点での防災への意識を高める良い機会になったのではないかと思います。

学園通信・追悼抄

本校に着任して



新入りです

総務課財務係

玉川 裕美

はじめまして。10月に着任しました玉川です。すでにご存じの方もいらっしゃると思いますが、9月まで金融機関に勤めており、出納業務を担当していました。多くの企業の方々と接する中で、福井には優れた技術を持った方がたくさんいることに気が

つきました。福井高専は5年間の一貫教育を実施し、専門科目も1年生から履修することで、高い技術力をもった人財の育成に力を入れていること思います。私も、そのような環境で学ぶ学生の皆さんのに少しでもなれば、と思っています。着任した日は不安もありましたが、優しい先輩方に教えていただき、充実した毎日を送っています。早く福井高専の力になれるよう、努力していきたいと思いますので、これからよろしくお願ひ致します。

丹羽義次 元校長を偲んで

第4代校長丹羽義次先生を偲んで

本校第4代校長の丹羽義次先生が平成26年9月6日にお亡くなりになられました。丹羽先生は京都大学工学部土木工学科教授を退官された後、昭和61年4月に校長として着任され、平成4年3月までの6年の間、福井高専の発展のためにご尽力をされました。任期中には、電子情報工学科の増設や総合情報処理センター及び先進技術教育研究センター（現在の地域連携テクノセンター）など現在の本校の主要施設の拡充に努められ、教育面では「知育、德育、体育」を掲げられ、知力だけではなく現在というところの人間力の育成を重視されていました。先生は土木工学において大きな功績を残され、また京都大学丹羽研究室からは多くの研究者を輩出しています。私は当時30歳代前半であり、先生の前では緊張感が拭えませんでしたが、先生は食堂や学科に招いての宴席などで気さくに話しかけてくれたことを覚えています。ここに、先生を偲びつつ、現在の高専の現状を鑑みても十分に通用する先生の当時

環境都市工学科 阿部孝弘

のお考えを私なりに解釈をさせていただき、その想いを今後に伝えたいと思います。

丹羽先生の名前を私は学生時代から知っていました。学生時代に使っていた構造力学の教科書の著者の御一人であったからです。私が着任当時の土木工学科の使用教科書でもありました。その話を先生とする機会があり、その時に先生は「あの教科書は日本で一番難しい構造力学の教科書なんだよ。」と言われました。その教科書には当時の構造力学に関するすべての内容を盛り込んであるということです。大学や高専などの最終学校の教科書は学生時代だけで終わるのではなく、技術者として社会に出てからも使用できなければなりません。したがって、すべての内容を盛り込む必要があり、すべてを盛り込んだ教科書であるので一番難しい教科書になるということです。ちなみに今でも私は時々その教科書を取り出して知識の再確認をするときがあります。現在、大学や高専では解りやすい授業をせよ言われてお

追悼抄

り、そのために解りやすい教科書が量産され、授業に使われています。また、インターネット上でいろいろなことを調べることもできることから、教科書が軽視されているように見受けられます。しかしながら、社会に出てからも日々学習です。学生時代に使った教科書を自分の身になるように卒業後も使ってほしいと願っています。また、今の教科書で満足できなければ自分でより高度の参考書を見つけてほしいと思います。常に上を目指す心を持てということが丹羽先生の教科書への想いであったと思います。

次に専攻科についての思い出です。福井高専に専攻科が設置されたのは平成10年4月のことですが、専攻科を設置するための特別委員会は丹羽先生が校長の時から活動をしていました。専攻科設置に対する丹羽先生の考えは、我が国における教育の複線化を行うために6・3・5・2体制の教育システムとしての専攻科を考えなければならないということでした。教員会議で何回も「6・3・5・2」と言われていたことを覚えています。この考えは当時の国専協の中では異端であるとも言われていました。専攻科の設置を6・3・3・4体制における学士を高専から輩出することを目的とするのではなく、技術者育成の実践教育を行っている本科5年間の上に立つ2年間の高専における学修を踏まえた教育システムとしなければならないということが主眼であったと私は思っています。現在、私は専攻科長の職に就いていますが、専攻科生の皆さんには学士+ α の能力を身に付けて修了していってほしいと願っています。 $+ \alpha$ の能力は高専本科5年間で培われた学習成果を基として、研究能力やグローバル化した社会に対応する能力そしてエンジニアリング・デザイン能力などがあげられると思います。学校としてもこのような能力を身に付けられるような教育課程を常に考え実践していかなければなりません。このことが高専のさらなる飛躍につながり、また、丹羽先生の考えていた専攻科であると思います。

平成5年4月に土木工学科から現在の環境都市工学科への改組が行われましたが、これについて多くのご助言をいただきました。コンピュータによる数値シミュレーションを多くされておられましたから、土木工学の情報に対する重要性に関する示唆を受けました。現在の土木工学分野において、数値解析や画像解析そして環境計測などでコンピュータは欠かせないものとなっています。先生の先見性をうかがい知り、もっとお話を聞いておけばよかったと悔やまれます。

20数年前の丹羽先生のお言葉が今でも高専教育に生きていると思います。校長退職後もお会いした時には福井高専のことを気にかけておられました。学生及び教職員一同が今後の福井高専のさらなる飛躍に邁進することを誓い、ここに丹羽先生のご冥福を謹んでお祈りしたいと思います。合掌。



クリーン大作戦・高専祭風景



クリーン大作戦



高専祭 (スケジュール)



高専祭 (企画)



高専祭 (ダンス部)



高専祭 (ライブ①)



高専祭 (吹奏楽部)



高専祭 (ライブ②)



高専祭 (花火)

マーク 本校ロゴマーク

平成26年12月18日発行 ☆福井工業高等専門学校 ☆〒916-8507 鯖江市下司町 TEL 0778-62-1111